

SPARCT3-2 サーバー

設置ガイド



Part No: E35094-01
2012年3月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ソフトウェアドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ソフトウェアドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標です。

AMD、Opteron、AMD のロゴ、および AMD Opteron のロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
ご使用にあたって	5
関連ドキュメント	5
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	6
設置の準備	7
関連情報	7
設置タスクの概要	7
サーバーの概要	8
サーバーの仕様の確認	10
出荷キットの内容一覧	16
フロントパネルのコンポーネント	18
背面パネルのコンポーネント	19
サーバーの取り扱い上の注意	20
ESDに関する注意事項	20
設置に必要な工具	21
オプションのコンポーネントを取り付ける	21
サーバーの設置	23
関連情報	23
ラックの互換性	23
取り付け用にラックを固定する	25
スライドレールを取り外す	26
固定部品を取り付ける	27
スライドレール構成部品を取り付ける	28
サーバーをスライドレール構成部品に取り付ける	32
CMAを取り付ける	34
スライドレールとCMAの動作を確認する	39
サーバーケーブルの接続	41

関連情報	41
配線の要件	41
背面パネルのコネクタとポート	42
SER MGT ケーブルを接続する	43
NET MGT ケーブルを接続する	44
Ethernet ネットワークケーブルを接続する	45
ネットワークモジュールケーブルに接続する	46
その他のデータケーブルを接続する	49
電源コードを準備する	50
ケーブルを CMA に固定する	51
サーバーへのはじめての電源投入	53
関連情報	53
電源投入時のタスク	53
ILOM システムコンソール	54
SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する	55
はじめてシステムの電源を入れる	56
Oracle Solaris OS の構成パラメータ	58
静的 IP アドレスを SP に割り当てる	60
サーバーポートの特定	63
関連情報	63
USB ポート	63
SER MGT ポート	64
NET MGT ポート	65
ギガビット Ethernet ポート	65
ビデオポート	66
SAS コネクタ	67
QSFP ポート	69
用語集	73
索引	77

このドキュメントの使用方法

このサービスドキュメントでは、Oracle の SPARC T3-2 サーバーでハードウェアに関する問題を診断し、部品を交換する方法について説明します。このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ、およびハードウェアの障害追跡や交換についての高度な経験を持つユーザーを対象としています。

- 5 ページの「ご使用にあたって」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 6 ページの「サポートとアクセシビリティ」

ご使用にあたって

この製品に関する最新の情報と既知の問題については、『ご使用にあたって』を参照してください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19166-01>

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
SPARC T3-2 サーバー	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19166-01
Oracle ILOM 3.0	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom30
Oracle Solaris OS およびその他のシステムソフトウェア	http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw
Oracle VTS 7.0	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19719-01

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com
	聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

設置の準備

これらのトピックでは、サーバーの設置手順に関する基本的な情報について説明します。

- 7 ページの「設置タスクの概要」
- 8 ページの「サーバーの概要」
- 10 ページの「サーバーの仕様の確認」
- 16 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 18 ページの「フロントパネルのコンポーネント」
- 19 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 20 ページの「サーバーの取り扱い上の注意」
- 20 ページの「ESD に関する注意事項」
- 21 ページの「設置に必要な工具」
- 21 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」

関連情報

- 23 ページの「サーバーの設置」
- 41 ページの「サーバーケーブルの接続」
- 53 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

設置タスクの概要

次のタスクを実行して、サーバーの設置と構成を行います。

手順	説明	リンク
1	サーバーの最新情報については、『SPARC T3-2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。	『SPARC T3-2 サーバーご使用にあたって』
2	サーバーの機能、仕様、および要件を確認します。	8 ページの「サーバーの概要」 10 ページの「サーバーの仕様の確認」
3	注文されたすべてのアイテムがそろっていることを確認します。	16 ページの「出荷キットの内容一覧」

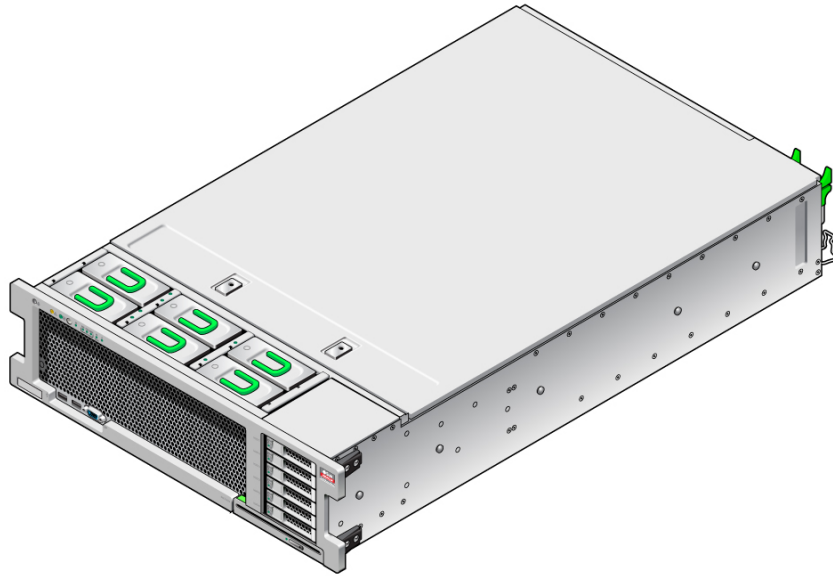
手順	説明	リンク
4	設置の際に必要なサーバーの機能、コントロール、LEDについて十分に理解します。	18 ページの「フロントパネルのコンポーネント」 19 ページの「背面パネルのコンポーネント」
5	安全対策と ESD (静電気による損傷) 対策を取り、必要な工具を組み立てます。	20 ページの「サーバーの取り扱い上の注意」 20 ページの「ESD に関する注意事項」 21 ページの「設置に必要な工具」
6	オプションのコンポーネントがあれば、それらをサーバーに取り付けます。	21 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」
7	サーバーをラックに設置します。	23 ページの「サーバーの設置」
8	データケーブルと管理ケーブルをサーバーに接続します。	41 ページの「サーバーケーブルの接続」
9	電源コードをサーバーに接続し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成し、サーバーにはじめて電源を入れ、オペレーティングシステムを設定します。	53 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

関連情報

- 『SPARC T3-2 サーバーご使用にあたって』
- 『SPARC T3-2 Server Safety and Compliance Guide』
- 『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』
- 『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』

サーバーの概要

このトピックでは、サーバーの主要なコンポーネントと機能について説明します。



コンポーネント	説明
CPU	マザーボード構成部品には2つのプロセッサが搭載されています。
メモリー	<p>最大で4つのメモリーライザーモジュール (CPU ごとに2つのライザー) がサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 各ライザーモジュールは8つのDIMMをサポートするため、プロセッサ1台あたり最大で16のDIMMが使用可能です。 ■ 4つのライザーモジュールに8GバイトのDIMMを上限まで取り付けたサーバーでは、最大256Gバイトのシステムメモリーを搭載できます。
ストレージデバイス	<p>内蔵ストレージの場合、サーバーは次を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ フロントパネルから接続できる2.5インチドライブベイ (6個)。 ■ サーバーの前面のドライブベイの下に設置される、オプションの slots 搭載の DVD+/-RW ドライブ。 ■ マザーボード上に内蔵されている高速USBポート (1個)。このポートでは、システムブート用のUSBフラッシュデバイスを保持できます。
USB 2.0 ポート	前面に2つ、背面に2つ、内部に1つのポートがあります。
ビデオポート	前面と背面に1つずつ、DB-15 高密度ビデオポートがあります。

コンポーネント	説明
PCI Express 2.0 I/O スロット	<p>ロープロファイルの PCIe カードを格納するための PCI Express 2.0 スロット (10 個)。どのスロットも x8 PCIe カードをサポートしています。2 つのスロットは x16 PCIe カードもサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スロット 4 および 5: x4 電気インタフェース ■ スロット 0、1、2、7、8、および 9: x8 電気インタフェース ■ スロット 3 および 6: x8 電気インタフェース (x16 コネクタ)
ネットワークモジュールスロット	<p>SPARC T3-2 サーバー 10 Gb ネットワークモジュールカード専用の特別なスロットです。サーバーでは、このスロットに標準の PCIe カードを搭載できません。</p>
Ethernet ポート	<p>背面パネルの 10/100/1000 RJ-45 GbE ポート (4 つ)。</p>
サービスプロセッサ	<p>サービスプロセッサは次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 業界標準の IPMI 機能セットをサポートする統合 BMC。 ■ IP を介した KVMs、DVD、フロッピーのリモート制御をサポートします。 ■ シリアルポートを含みます。 ■ 専用の 10/100BaseT 管理ポートを使用した SP への Ethernet アクセス、およびオプションでホストの GbE ポートの 1 つ (Oracle ILOM サイドバンド管理を使用) を使用した SP への Ethernet アクセスをサポートします。
電源装置	<p>ホットスワップが可能な 2 台の電源装置で、それぞれに自動範囲設定、軽負荷効率モード、および冗長オーバーサブスクリプションを備えています。</p>
冷却ファン	<p>シャーシの前面のホットスワップが可能な 6 個の冗長ファン (上部搭載)。冗長ファンは各電源装置にあります。</p>
管理ソフトウェア	<p>Oracle ILOM。</p>

関連情報

- 『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』
- Oracle ILOM のドキュメント
- 18 ページの「フロントパネルのコンポーネント」
- 19 ページの「背面パネルのコンポーネント」

サーバーの仕様の確認

サーバーを設置する前に、サーバーの仕様を確認して設置場所を準備します。

- 11 ページの「物理仕様」
- 11 ページの「電気仕様」
- 12 ページの「入力電力の情報」
- 13 ページの「環境要件」
- 14 ページの「音響ノイズの放出」
- 15 ページの「冷却ゾーンと通気のすき間」

関連情報

- 8 ページの「サーバーの概要」
- 16 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 63 ページの「サーバーポートの特定」

物理仕様

注 - 設置や保守を安全に行えるように、サーバーの前後に 91 cm (36 インチ) のスペースを確保してください。

寸法	値
高さ	129.85 mm (5.11 インチ)
幅	436.5 mm (17.19 インチ)
奥行	732 mm (28.82 インチ)
重量	最大 36.28 kg、最小 26.31 kg (最大 80 ポンド、最小 58 ポンド)
保守のために最低限必要なスペース (前面)	91 cm (36 インチ)
保守のために最低限必要なスペース (背面)	91 cm (36 インチ)

関連情報

- 16 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 23 ページの「サーバーの設置」

電気仕様

次の表に、このサーバーで使用される電源装置の最大定格出力を示します。示されている電力数値は、システムの実際の定格消費電力ではありません。

オンラインの消費電力計算機能 (Power Calculator) を使用して、構成の消費電力を判定してください。適切な消費電力計算機能を見つけるには、次の Web サイトに進み、SPARC T3-2 サーバーのページを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/powercalculators/>

注- 可能であれば、それぞれの電源装置を別々の回路に接続するように計画してください。この冗長接続を行うと、いずれかの回路に障害が発生してもサーバーは動作を続けることができます。詳細な要件については、使用地域の電気に関する条例を調べてください。

パラメータ	値
入力	
周波数	50/60 Hz
公称 AC 動作電圧範囲	200 - 240 VAC
各電源コードの最大 AC 電流 (RMS)	12 A @ 200 VAC
定格電圧-電流	2218 VA @ 240 VAC
力率	0.98 P.F. @ 240 VAC、全負荷時
電力消費	
電源装置の最大電力消費	2175 W
最大出熱	7417 BTU/時
突入電流 (ピーク値)	25 A
リーク電流	1.6 mA
出力	
3.3 VDC STBY	10 A
+12 VDC	165 A

関連情報

- 12 ページの「入力電力の情報」
- 50 ページの「電源コードを準備する」
- 53 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

入力電力の情報

サーバーは、冗長性のあるホットスワップ可能な電源装置を備えています。それぞれの電源装置が別々の電源に接続されている場合、次のような障害状況が発生してもサーバーは動作を継続できます。

- 電源障害によって電源装置の1つに電力が供給されなくなった場合。
- 電源装置の1つが故障した場合。

- 保守作業で電源装置の1つを取り外す必要がある場合。

電源装置の交換手順については、『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。

注-入力電源ケーブル:初期設定のメッセージを見逃すことがないように、データケーブルの接続が完了し、サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ(PCまたはワークステーション)に接続するまでは、電源ケーブルを電源装置に接続しないでください。入力電源ケーブルを電源に接続するとすぐに、サーバーがスタンバイモードになり、Oracle ILOM サービスプロセッサが初期化されます。

関連情報

- 『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』
- 11 ページの「電気仕様」
- 50 ページの「電源コードを準備する」

環境要件

サーバーが安定して動作するために最適な温度である、21°C (69.8°F) - 23°C (73.4°F) の周辺温度の場所にサーバーを設置して運用します。22°C (71.6°F) では、安全な相対湿度レベルの維持が容易です。環境サポートシステムに障害が発生した場合でも、この温度範囲内で動作していれば、すぐに危険な状態になることはありません。

周囲の相対湿度のレベルが 45% - 50% の設置場所でサーバーを運用すると、サーバーの腐食を防ぐことができ、環境制御システムの障害発生時にもサーバーがしばらくの間動作でき、さらに相対湿度が低すぎる場合に発生する静電気による故障を防ぐことができます。

注-相対湿度が35%より低い環境では、静電放電が発生しやすく、除去も難しくなり、相対湿度が30%より低いと非常に危険です。

サーバーは、次の表に記載されているオペレーティング環境の制限値内で動作させた場合に、すべての機能要件を満たすことがテストによって確認されています(すべての値は、単一の非ラックマウント型サーバーに対するものです)。

パラメータ	値
動作時の温度	5°C - 35°C (41°F - 95°F)
非動作時の温度	-40°C - 65°C (-40°F - 149°F)
動作時の湿度	相対湿度 10% - 90%、最高湿球温度 27°C (80.6°F)、結露なし

パラメータ	値
非動作時の湿度	93% を超える相対湿度、最大湿球温度 38°C (100.4°F)、結露なし
動作時の高度	最高 3000 m (10,000 フィート)、最大周辺温度は 1 km 上昇するごとに 2°C (3,280 フィート上昇するごとに 3.6°F) 低下
非動作時の高度	最高 12,000 m (40,000 フィート)
動作時の振動	0.15 G (垂直)、0.10 G (水平)、5 - 500 Hz、掃引正弦
非動作時の振動	0.5 G (垂直)、0.25 G (水平)、5 - 500 Hz、掃引正弦
動作時の衝撃	3.0 G、11 ms、半正弦
非動作時の衝撃	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロールオフ: 前面から背面方向への 1 インチロールオフ自由落下 ■ しきい値: 25 mm の段差、衝突時の速度 0.75 m/s

関連情報

- [14 ページの「音響ノイズの放出」](#)
- [15 ページの「冷却ゾーンと通気のすき間」](#)

音響ノイズの放出

サーバーの公表ノイズ放出値は、ISO 9296 規格に準拠しています。

説明	モード	仕様
LwAd (1 B = 10 dB)	動作時の音響ノイズ	7.7 B
	アイドル時の音響ノイズ	7.6 B
LpAm (バイスタнда位置)	動作時の音響ノイズ	61.5 dB
	アイドル時の音響ノイズ	61.2 dB

関連情報

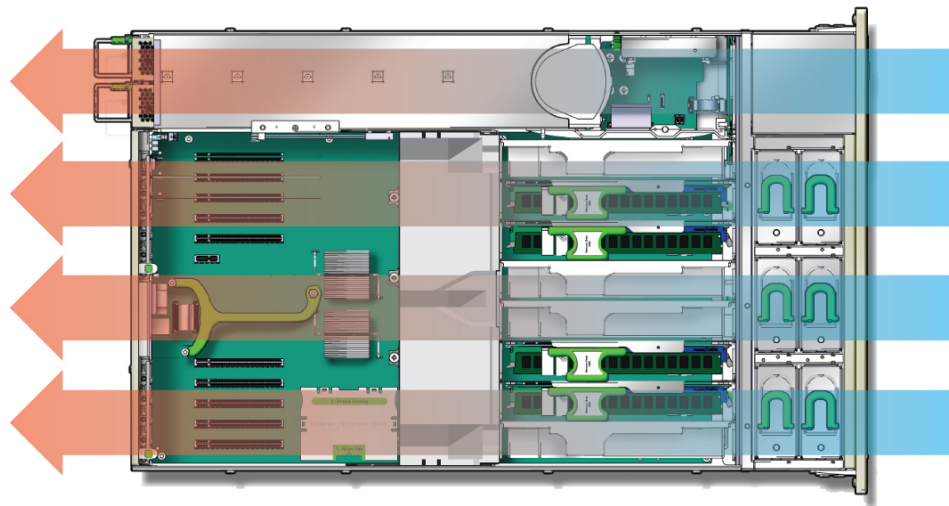
- 『SPARC T3-2 Server Safety and Compliance Guide』
- [13 ページの「環境要件」](#)
- [15 ページの「冷却ゾーンと通気のすき間」](#)

冷却ゾーンと通気のすき間

注-サーバーの内部温度を安全な動作範囲内に保つためには、サーバーの適度な通気が不可欠です。

サーバーには、メインの冷却ゾーンと電源装置の冷却ゾーンの、2つの加圧型冷却ゾーンがあります。メインの冷却ゾーンでは、冗長性のある2列配置の6つのファンにより、マザーボード、メモリーライザー、I/Oカードを冷却します。電源装置の冷却ゾーンでは、背面にある電源装置ファンにより、電源装置と前面のドライブベイを冷却します。サーバーでは、電源装置のファンが前面のドライブベイから吸気できるように、加圧式のプラスチック製の隔壁シールを維持しておく必要があります。

サーバーはサーバーの前面から冷気を取り入れ、背面から熱気を排出します。



サーバーの過熱を防ぐには

- 空気が、サーバーの前面から吸気され、背面に排気されることを確認してください。
- サーバーの通気が妨げられていないことを確認してください。
- サーバー前面の吸気口に温かい空気を直接当てないでください。
- ラックまたはキャビネット内で排気が再循環しないようにしてください。
- サーバーの排気口の妨げにならないように、ケーブルをまとめてください。

- 空気の吸気と排気に使用される、サーバーの通気孔が、サーバーの前面と背面の開放された部分の穴のうちの、少なくとも 60% の部分を使用するようにします。
- サーバーを取り付けるときには、システムの前面に 5 mm (0.2 インチ) 以上、サーバーの背面に 80 mm (3.1 インチ) 以上のスペースが必要です。これらのスペースの値は、前述の吸気および排気のインピーダンス (使用可能な開放部分) に基づいたもので、開放部分が吸気および排気面に均一に分散していると仮定しています。冷却パフォーマンスを高めるために、さらに広いスペースを確保することをお勧めします。

注- キャビネットドアやドアからサーバーまでのスペースなど、吸気および排気に関する制限の組み合わせは、サーバーの冷却パフォーマンスに影響を与える可能性があることに注意してください。

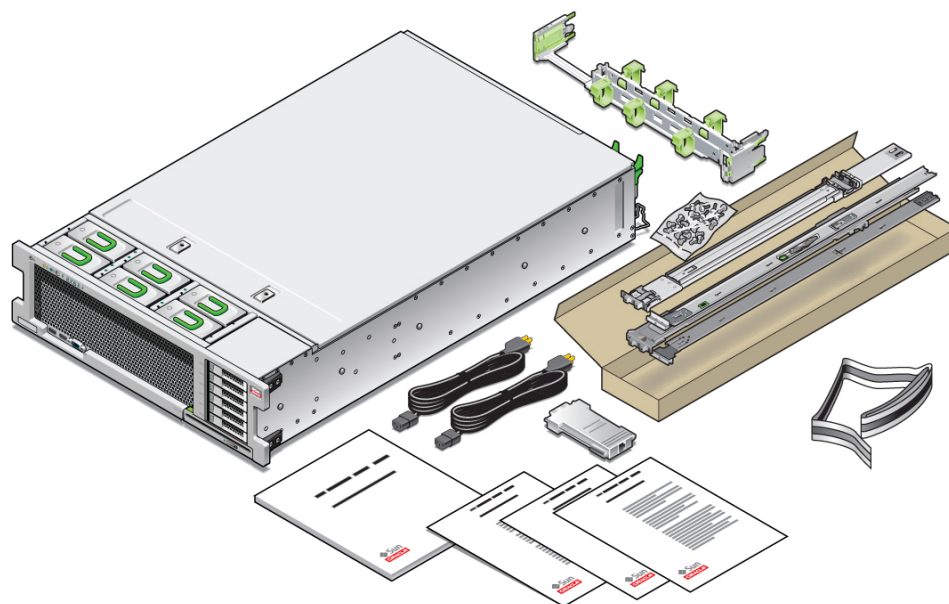
関連情報

- [13 ページの「環境要件」](#)
- [14 ページの「音響ノイズの放出」](#)

出荷キットの内容一覧

注- サーバーが到着したら、設置する環境にサーバーを置いてください。設置場所で、梱包を解かずにサーバーを 24 時間放置してください。この休止期間によって、温度衝撃および結露を防ぐことができます。

使用するサーバと一緒に出荷されるコンポーネントがすべて届いていることを確認します。

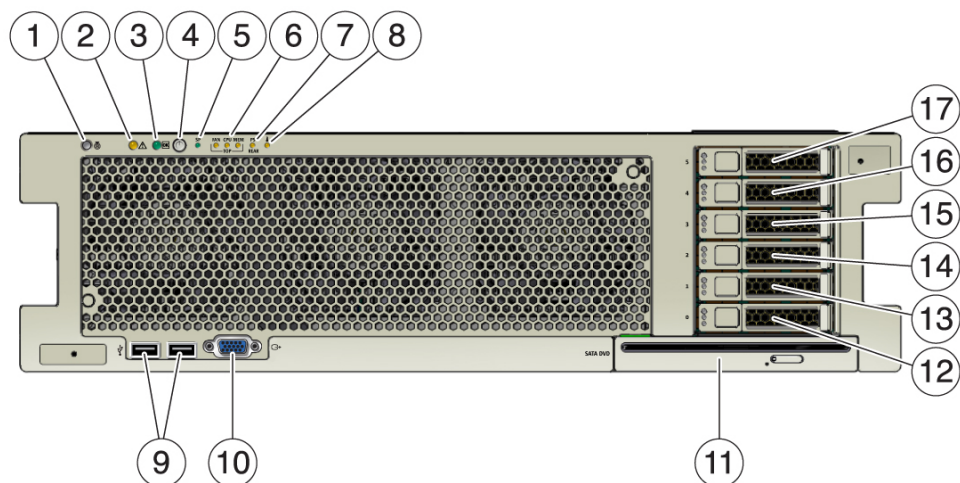


- SPARC T3-2 サーバー
- AC電源コード x2 (注文された場合)
- SER MGT ポート用 RJ-45/DB-9 クロスアダプタ
- 静電気防止用リストストラップ
- ラックマウントキット
- ケーブル管理アーム (注文された場合)
- 『SPARC T3-2 サーバーのご使用の手引き』、ライセンスおよび安全に関するドキュメント
- オプションのコンポーネント (PCIe カードなど)、ほかのアイテムとは別に梱包されています。

関連情報

- 8 ページの「サーバーの概要」
- 10 ページの「サーバーの仕様の確認」

フロントパネルのコンポーネント

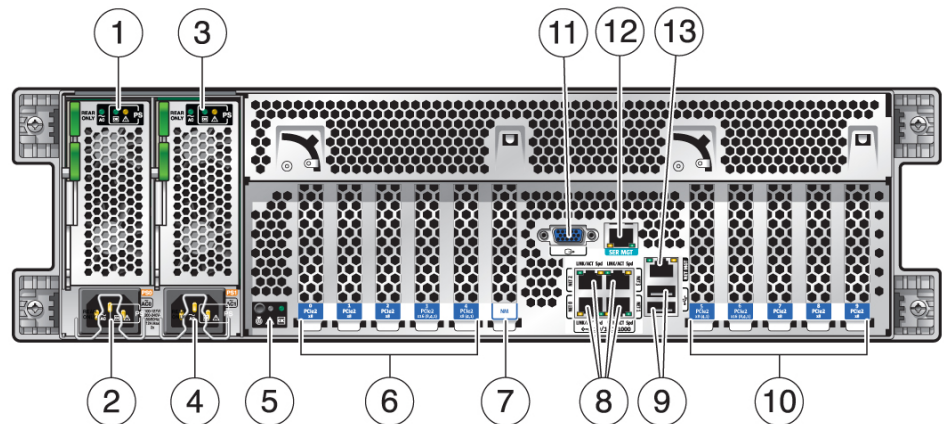


番号	説明	番号	説明
1	ロケータLED/ロケータボタン: 白色	10	DB-15 ビデオコネクタ
2	保守要求LED: オレンジ色	11	SATA DVD ドライブ(オプション)
3	主電源/OKLED: 緑色	12	ドライブ0(オプション)
4	電源ボタン	13	ドライブ1(オプション)
5	SP OK/障害LED: 緑色/オレンジ色	14	ドライブ2(オプション)
6	ファンモジュール(FAN)、プロセッサ(CPU)、およびメモリーの保守要求LED(3): オレンジ色	15	ドライブ3(オプション)
7	電源装置(PS)の障害(保守要求)LED: オレンジ色	16	ドライブ4(オプション)
8	過熱警告LED: オレンジ色	17	ドライブ5(オプション)
9	USB 2.0 コネクタ(2)		

関連情報

- 19 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」

背面パネルのコンポーネント



番号	説明	番号	説明
1	電源ユニット0のステータスインジケータ LED: <ul style="list-style-type: none"> ■ 保守要求: オレンジ色 ■ AC OK: 緑色またはオレンジ色 	8	ネットワークの 10/100/1000 ポート: NET0 - NET3
2	電源ユニット0の AC 電源差し込み口	9	USB 2.0 コネクタ (2)
3	電源ユニット1のステータスインジケータ LED <ul style="list-style-type: none"> ■ 保守要求: オレンジ色 ■ AC OK: 緑色またはオレンジ色 	10	PCIe カードスロット 5-9
4	電源ユニット1の AC 電源差し込み口	11	DB-15 ビデオコネクタ
5	システムステータス LED: <ul style="list-style-type: none"> ■ 電源/OK: 緑色 ■ 注意: オレンジ色 ■ 位置特定: 白色 	12	SP SER MGT RJ-45 シリアルポート
6	PCIe2 カードスロット 0-4	13	SP NET MGT RJ-45 ネットワークポート
7	ネットワークモジュールのカードスロット		

関連情報

- [18 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [41 ページの「サーバーケーブルの接続」](#)

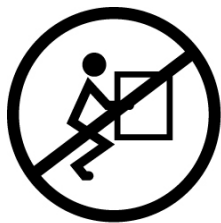
サーバーの取り扱い上の注意



注意-取り付け作業を開始する前に、装置ラックに転倒防止バーを設置してください。



注意-サーバーの重量は、約36.29 kg (80 ポンド)です。このドキュメントの手順に従って、2Uサーバーを持ち上げてラック格納装置に取り付けるには、2人の作業員が必要です。



注意-2人で行う手順については、各手順の前後および作業中に常に意思の疎通を図り、混乱が起これないようにしてください。

関連情報

- 11 ページの「物理仕様」
- 23 ページの「サーバーの設置」
- 『SPARCT3-2 サーバーご使用の手引き』

ESD に関する注意事項

電子機器は、静電気により損傷する可能性があります。サーバーの設置または保守作業時は、接地された静電気防止リストストラップ、フットストラップ、または同様の安全器具を使用して、静電気による損傷 (ESD) を防止します。



注意-電子コンポーネントを静電気による損傷から保護するために(システムが永続的に使用できなくなるか、保守技術者による修復が必要になる可能性があります)、静電気防止用マット、静電気防止袋、使い捨て静電気防止用マットなどの静電気防止面にコンポーネントを置いてください。システムコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電防止用アースストラップを着用してください。

関連情報

- [23 ページの「サーバーの設置」](#)
- [41 ページの「サーバーケーブルの接続」](#)

設置に必要な工具

システムを設置するには、次の工具が必要です。

- プラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- ESD マットおよびアースストラップ

さらに、次のいずれかのようなシステムコンソールデバイスを用意する必要があります。

- ASCII 端末
- ワークステーション
- 端末サーバー
- 端末サーバーに接続されたパッチパネル

関連情報

- [21 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」](#)
- 『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』

オプションのコンポーネントを取り付ける

サーバーの標準コンポーネントは出荷時に取り付けられています。ただし、増設メモリーや PCI カードなどを注文した場合、これらは個別に出荷されます。可能な場合は、サーバーをラックに取り付ける前に、これらのコンポーネントを取り付けてください。

注文されたオプションが出荷時に取り付けられていない場合、取り付け手順については、『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』およびコンポーネントのドキュメントを参照してください。

注- オプションのコンポーネントのリストは、予告なしに更新される可能性があります。サーバーでサポートされているコンポーネントの最新のリストについては、製品の Web ページを参照してください。

関連情報

- オプションのコンポーネントのドキュメント
- 『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』

サーバーの設置

これらのトピックでは、ラックマウントキットのレール構成部品を使用して、サーバーをラック内に取り付ける方法について説明します。レール構成部品を購入された場合は、これらの手順に従ってください。

注-このガイドでは、用語「ラック」とはオープンラックまたはクローズキャビネットを意味します。

- 23 ページの「ラックの互換性」
- 25 ページの「取り付け用にラックを固定する」
- 26 ページの「スライドレールを取り外す」
- 27 ページの「固定部品を取り付ける」
- 28 ページの「スライドレール構成部品を取り付ける」
- 32 ページの「サーバーをスライドレール構成部品に取り付ける」
- 34 ページの「CMA を取り付ける」
- 39 ページの「スライドレールと CMA の動作を確認する」

関連情報

- 7 ページの「設置の準備」
- 41 ページの「サーバーケーブルの接続」

ラックの互換性

使用するラックがオプションのスライドレールおよびケーブル管理アームと互換性があることを確認します。オプションのスライドレールは、次の標準を満たすさまざまな装置ラックと互換性があります。

アイテム	要件
構造	前後左右で固定する形式の4ポストラック。2ポストラックは互換性がありません。
ラックの横方向の開口部とユニットの縦方向のピッチ	ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 規格に適合すること。

アイテム	要件
ラックレール取り付け穴のサイズ	9.5 mm の四角穴および M6 丸型取り付け穴のみがサポートされています。7.2 mm、M5、10 - 32 の取り付け穴など、その他のすべてのサイズはサポートされていません。
前側取り付け面と後ろ側取り付け面の距離	622 - 895 mm (24.5 - 35.25 インチ)。
前側取り付け面の前面の隙間	キャビネット前面ドアまでの距離が 27 mm (1.06 インチ) 以上あること。
前側取り付け面の背後の隙間	ケーブル管理アームを使用する場合は、キャビネット後面ドアまで 900 mm (35.5 インチ) 以上の間隔があること、ケーブル管理アームを使用しない場合は 770 mm (30.4 インチ) 以上であること。
前側取り付け面と後ろ側取り付け面の幅	構造的支柱とケーブルの溝の距離が 456 mm (18 インチ) 以上であること。
サーバーの寸法	奥行き (PSU ハンドルを含まない長さ): 732 mm (28.82 インチ) 幅 (耳を含まない長さ): 436.5 mm (17.19 インチ) 高さ: 129.85 mm (5.11 インチ)



注意 - 装置の搭載: 上方が重くなり転倒することがないように、装置は必ずラックの最下段から上へ順次搭載してください。サーバー取り付け時にラックが転倒しないように、ラックの転倒防止バーを装備してください。



注意 - 動作時周辺温度の上昇: 密閉されたラックアセンブリまたはマルチユニットのラックアセンブリにサーバーを設置している場合、ラック環境の動作時周辺温度が室内の周辺温度より高くなる場合があります。したがって装置は、サーバーに指定された最大周辺温度 (TMA) に適合する環境内にもみ設置してください。



注意 - 通気の低下: 装置をラックに取り付けて、装置が安全に動作するための十分な通気を得られるようにします。



注意-装置の配置:装置をラックに取り付けて、重量が均等に分散されるようにします。装置の配置が不均等な場合、危険な状態になっている可能性があります。



注意-回路の過負荷:電源装置の回路に過大な電流が流れないようにします。サーバーを電源回路に接続する前に、装置のラベルに示されている電力定格を確認し、回路の過負荷によって過電流保護や装置の配線にどのような影響があるかを検討します。



注意-安全な接地:ラックに搭載する装置は必ず安全に接地します。分岐回路への直接接続以外の電源接続(電源タップの使用など)の場合は、特に注意してください。



注意-スライドレールに搭載した装置を、シェルフやワークスペースとして使用しないでください。

関連情報

- 11 ページの「物理仕様」
- 20 ページの「サーバーの取り扱い上の注意」
- 25 ページの「取り付け用にラックを固定する」

▼ 取り付け用にラックを固定する



注意-作業員が負傷する危険性を低減するために、拡張ラックキャビネットを固定し、すべての転倒防止装置を伸ばしてから、サーバーを取り付けます。

次のステップの詳細手順については、ラックのドキュメントを参照してください。

- 1 ラックキャビネットの前面ドアと背面ドアを開いて取り外します。
- 2 取り付け中にラックキャビネットが転倒しないように、あらゆる転倒防止策を講じてキャビネットを固定します。
- 3 横転を防ぐための平行調整脚がラックの下部にある場合は、調整脚を床まで完全に伸ばします。

- 4 ラックキャビネット前面の下部にある、ラックキャビネットの転倒防止脚または転倒防止バーをすべて伸ばします。

参考 関連情報

- ラックのドキュメント
- 『SPARC T3-2 Server Safety and Compliance Guide』
- [23 ページの「ラックの互換性」](#)

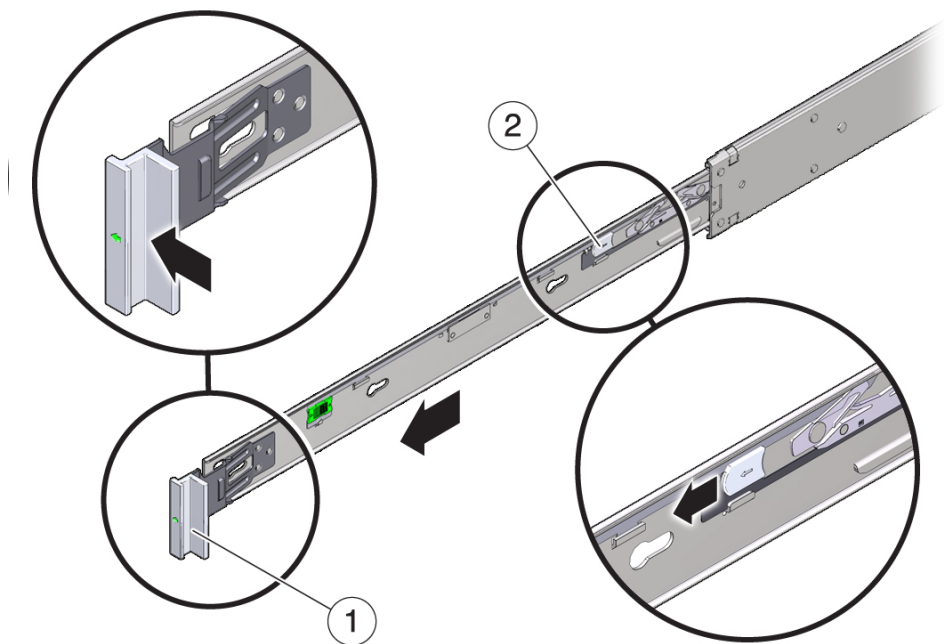
▼ スライドレールを取り外す

設置前に、次のタスクを実行してスライドレールを取り外します。

スライドレール構成部品から固定部品を取り外すには:

- 1 スライドレールを開梱します。
- 2 スライドレール構成部品の前面にあるスライドレールロックを確認します。

図1 設置前のスライドレールの取り外し



図の説明

- 1: スライドレールのロック
- 2: 固定部品リリースボタン

- 3 矢印の方向にスライドレールロックを押しながら、固定部品がストップに達するまでスライドレールから引き出します。
- 4 固定部品リリースボタンを固定部品の前側に押しながら、固定部品をスライドレール構成部品から外します。
- 5 残りのスライドレール構成部品についても、上記の手順を繰り返します。

参考 関連情報

- [27 ページの「固定部品を取り付ける」](#)
- [28 ページの「スライドレール構成部品を取り付ける」](#)
- [32 ページの「サーバーをスライドレール構成部品に取り付ける」](#)

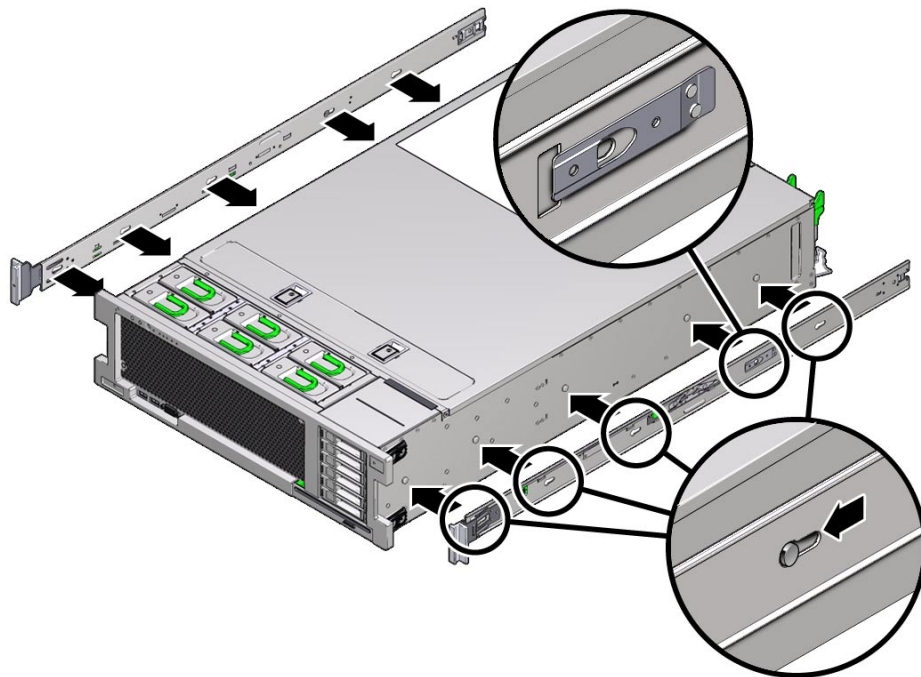
▼ 固定部品を取り付ける

サーバーをラックに搭載する前に、固定部品をサーバーに取り付ける必要があります。

- 1 スライドレールロックがサーバーの前面に来て、固定部品の5つの鍵穴の開口部がシャーシの側面にある5つの位置決め用ピンと整列するように、シャーシに対して固定部品を位置決めします。

注- 固定部品はすべて同一で、シャーシのどちら側にも取り付けることができます。

図2 固定部品とサーバーシャーシとの整列



- 2 5つのシャーシ位置決め用ピンの頭を固定部品の5つの鍵穴の開口部に挿入し、固定部品を、クリップがカチッと音がして固定されるまで、シャーシの前面に向けて引っ張ります。
- 3 背面の位置決め用ピンが固定部品のクリップにかみ合っていることを確認します。
- 4 上記の手順を繰り返して、サーバーのもう片方の側面にある残りの固定部品を取り付けます。

参考 関連情報

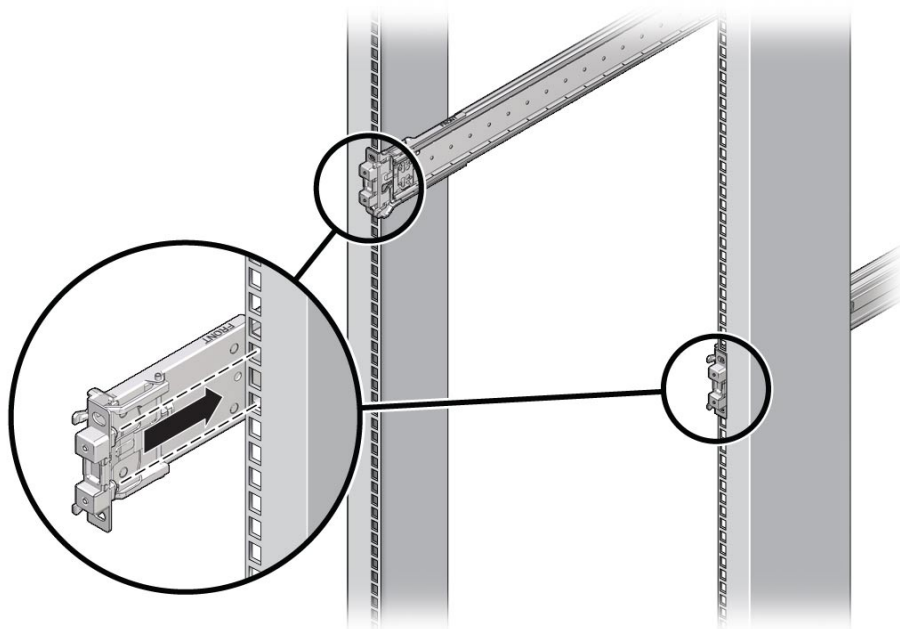
- [26 ページの「スライドレールを取り外す」](#)
- [28 ページの「スライドレール構成部品を取り付ける」](#)
- [32 ページの「サーバーをスライドレール構成部品に取り付ける」](#)

▼ スライドレール構成部品を取り付ける

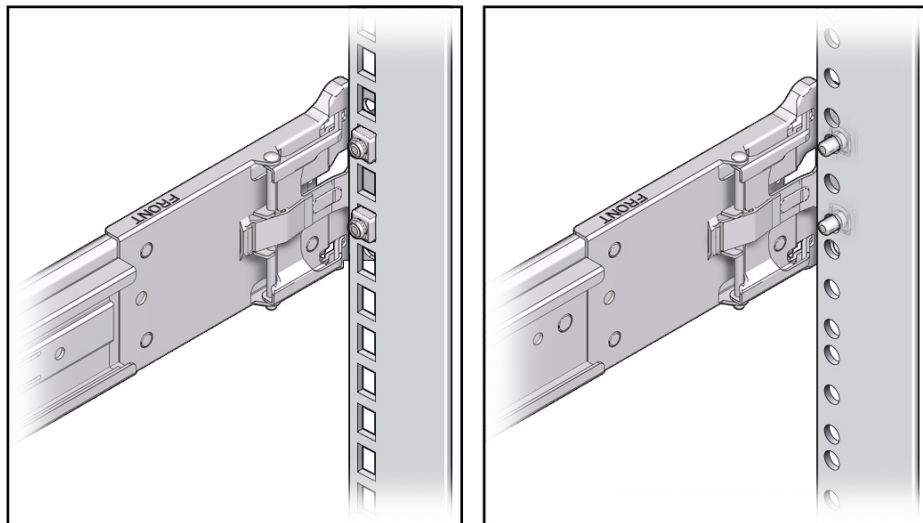
次の手順を実行して、スライドレール構成部品をラックに取り付けます。

注-スライドレール構成部品では、9.5 mmの四角穴およびM6丸穴のラックのみをサポートしています。7.2 mm、M5、10-32の取り付け穴など、その他のすべてのラックはサポートされていません。レール穴のサイズについては、ラックのドキュメントを参照してください。

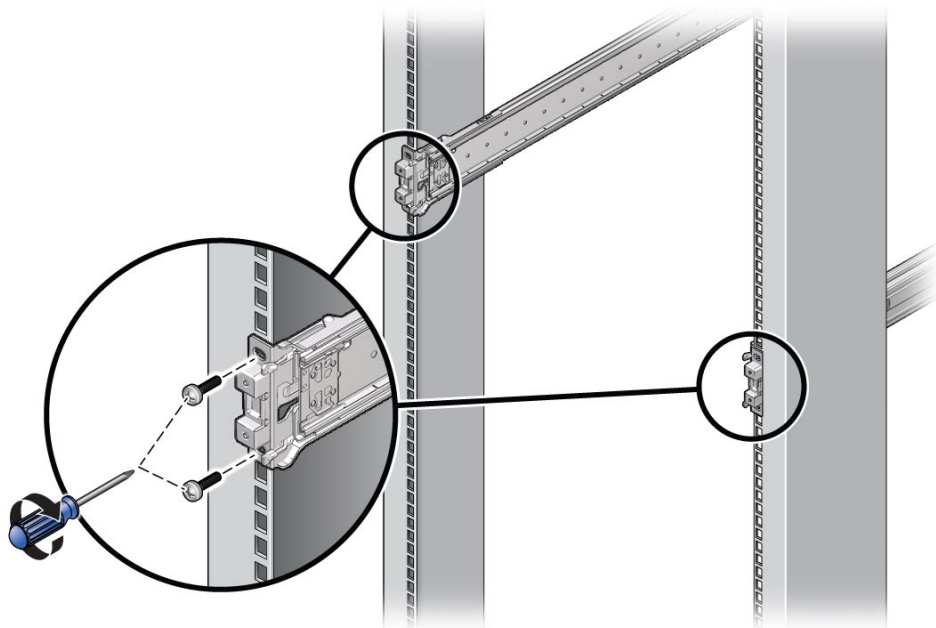
- 1 (オプション)サーバーが取り付けられているラックを移動する必要がある場合は、取り付けネジとケージナットでスライドレール構成部品をラックに固定します。
ケージナットを取り付けてから、次の手順に進みます。これらのケージナットの取り付け手順については、「レールラックマウントキットの概要と情報」カードを参照してください。このカードはレールキットに含まれています。
- 2 スライドレール構成部品の前面の固定部品が前面のラックポストの外側に来るように、またスライドレール構成部品の背面の固定部品が背面のラックポストの内側に来るように、ラック内でスライドレール構成部品を位置決めします。
- 3 スライドレール構成部品の取り付けピンと、前面と背面のラックポストの取り付け穴の位置合わせを行います。次に、取り付けピンがラックにかみ合うまで構成部品をラックの背面の方向に押し込んで、構成部品を固定します。
取り付けピンとラックがかみ合うと、カチっという音がします。



スライド構成部品の取り付けピンは、9.5 mm 四角穴と M6 丸型取り付け穴でのみ使用できます。それ以外のサイズの見つけ穴はサポートされていません。



- (オプション)スライドレール構成部品をネジでラックに固定する場合は、前面と背面の両方のスライドレール部品とラックポストから **M6** 取り付けネジを取り付け、ケージナットでネジをラックポストに固定します。



- 残りのスライドレール構成部品についても、[手順 2](#) から [手順 4](#) を繰り返します。



注意 - ラックに転倒防止装置がない場合、サーバーの取り付け時にラックが転倒する可能性があります。

- 使用可能な場合は、ラックの下部の転倒防止脚または転倒防止バーを伸ばします。手順については、ラックのドキュメントを参照してください。詳細は、[25 ページ](#)の「[取り付け用にラックを固定する](#)」を参照してください。

参考 関連情報

- [26 ページ](#)の「[スライドレールを取り外す](#)」
- [27 ページ](#)の「[固定部品を取り付ける](#)」
- [32 ページ](#)の「[サーバーをスライドレール構成部品に取り付ける](#)」

▼ サーバーをスライドレール構成部品に取り付ける

固定部品を取り付けたサーバーシャーシを、ラックに取り付けられているスライドレール構成部品に設置するには、この手順に従います。

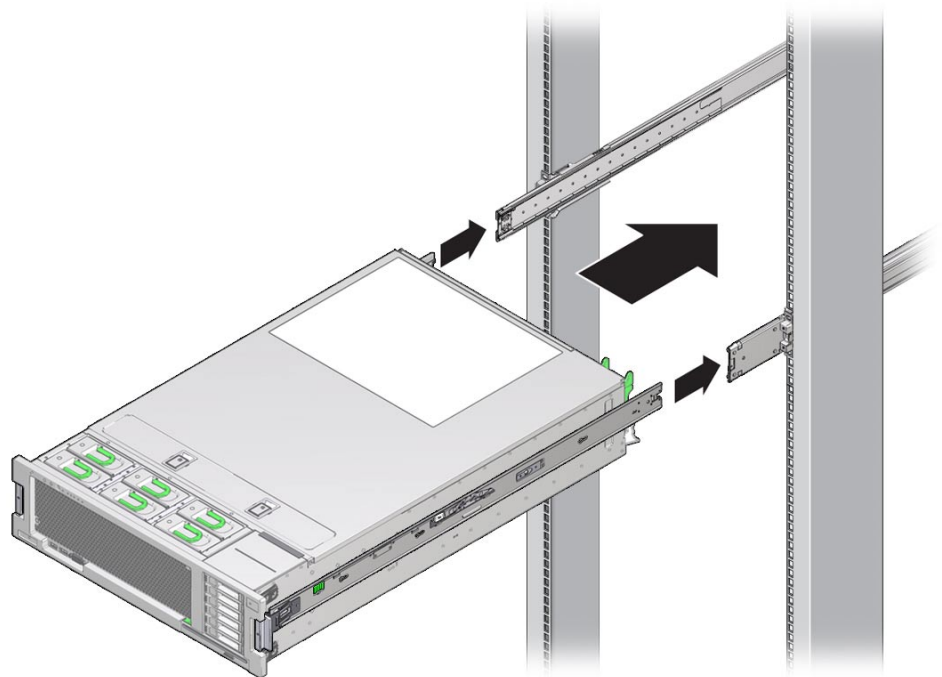


注意-サーバーは重いので、この手順では少なくとも2名の作業者が必要です。この手順を1人で実行すると、機器が損傷したり、けがをする可能性があります。



注意-上方が重くなり転倒することがないように、機器は必ずラックの最下段から上へ順次搭載してください。転倒防止バーまたは転倒防止脚を伸ばして、機器の設置中にラックが転倒しないようにしてください。詳細は、[25 ページの「取り付け用にラックを固定する」](#)を参照してください。

- 1 スライドレールをラックのスライドレール構成部品にできるだけ奥まで押し込みます。
- 2 固定部品の後端が、ラックに取り付けられているスライドレール構成部品と整列するようにサーバーを持ち上げます。



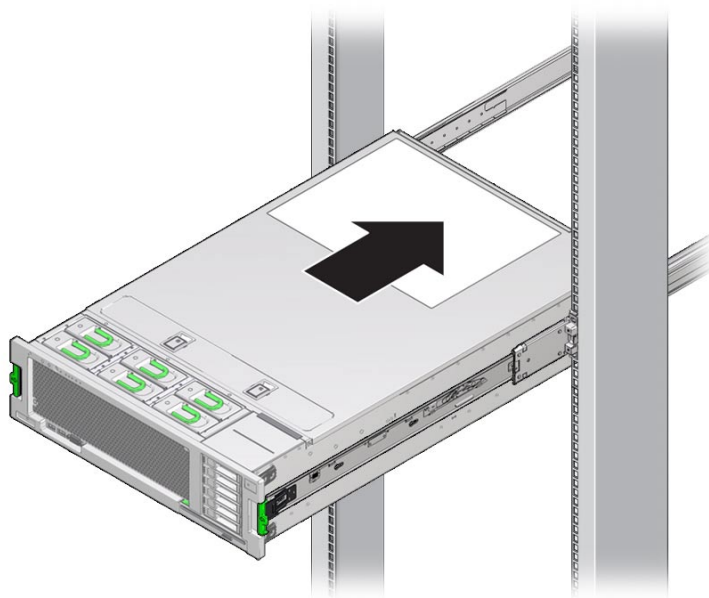
- 3 固定部品をスライドレールに挿入し、固定部品がスライドレールのストップに接触するまでサーバーをラック内に押し込みます (約 30 cm (12 インチ))。



注意-サーバーをスライドレールに挿入するとき、固定部品の上下の取り付けリップがスライドレールに挿入されていることを確認します。サーバーが正しく取り付けられている場合は、サーバーを前後に簡単にスライドできるはずですが、サーバーを簡単にスライドできない場合は、各取り付けリップが正しく挿入されていることを確認してください。固定部品が正しく挿入されていないと、サーバーをラックから取り外すときに落下する可能性があります。

- 4 両方の固定部品の緑色のスライドレールリリースボタンを同時に押しながら、サーバーをラック内に押し込みます。

固定部品の前面のスライドレールロックがスライドレール構成部品にかみ合うまで押し込みます。かみ合うと、「カチッ」と音がします。



注意-サーバーがラックにしっかりと取り付けられていること、およびスライドレールロックが固定部品にかみ合っていることを確認してから次の手順に進みます。

参考 関連情報

- 26 ページの「スライドレールを取り外す」
- 27 ページの「固定部品を取り付ける」
- 28 ページの「スライドレール構成部品を取り付ける」
- 34 ページの「CMA を取り付ける」
- 39 ページの「スライドレールと CMA の動作を確認する」

▼ CMA を取り付ける

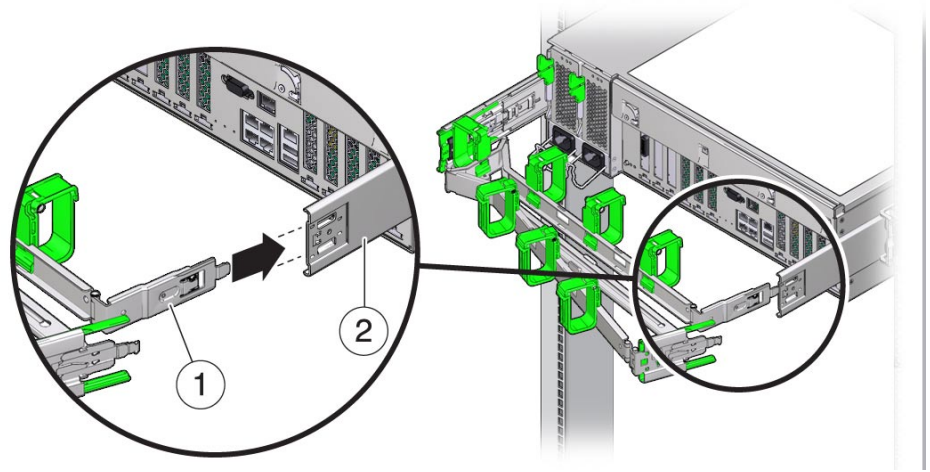
ケーブル管理アームはオプションの構成部品であり、ラック内のサーバーケーブルの配線に使用できます。

- 1 CMA の部品を開梱します。
- 2 CMA を機器ラックの背面に移動し、サーバーの背後に十分な作業スペースがあることを確認します。

注- この手順の「左」と「右」は、機器ラックの背面を見たときの左と右を示します。

- 3 テープを剥がして CMA の部品を分けます。
- 4 CMA の固定部品コネクタを、カチッと音がして固定されるまで、右側のスライドレールに差し込みます。

図3 CMA固定部品を右側スライドレール後部に差し込む

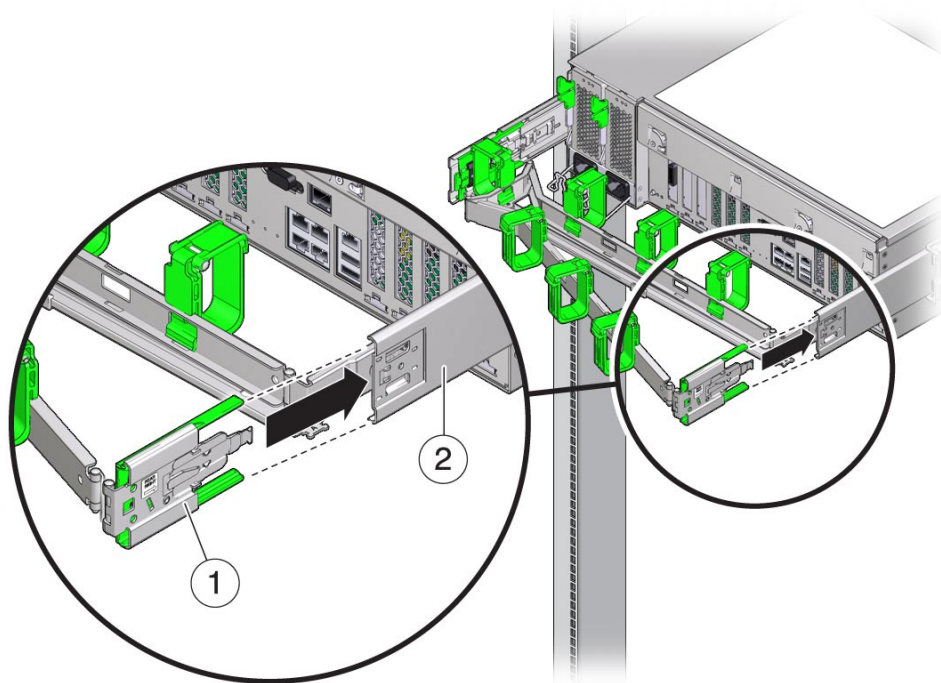


図の説明

- 1: CMA 固定部品
- 2: 右側スライドレール

- 5 右側のCMAスライドレールコネクタを、カチッと音がして固定されるまで、右側スライドレール構成部品に差し込みます。

図4 CMA スライドレールコネクタを右側スライドレール後部に差し込む

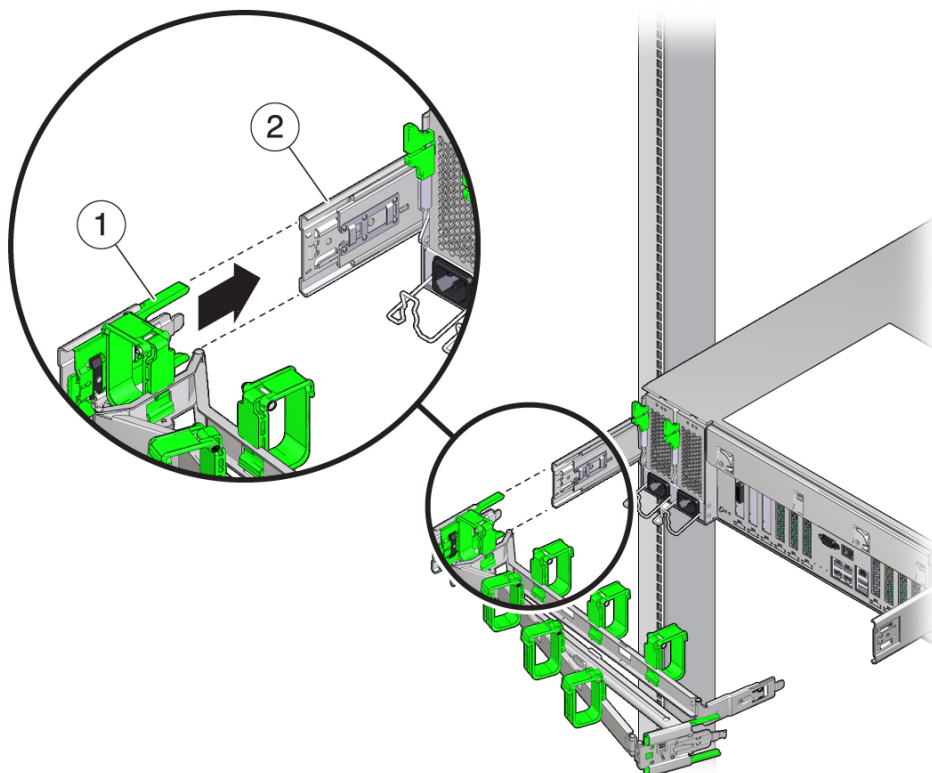


図の説明

- 1: CMA スライドレールコネクタ
- 2: 右側スライドレール

- 6 左側の CMA スライドレールコネクタを、カチッと音がして固定されるまで、左側のスライドレール構成部品に差し込みます。

図5 CMA スライドレールコネクタを左側スライドレール後部に差し込む



図の説明

- 1: CMA スライドレールコネクタ
2: 左側スライドレール

- 7 必要に応じて、サーバーまでケーブルを配線して取り付けます。

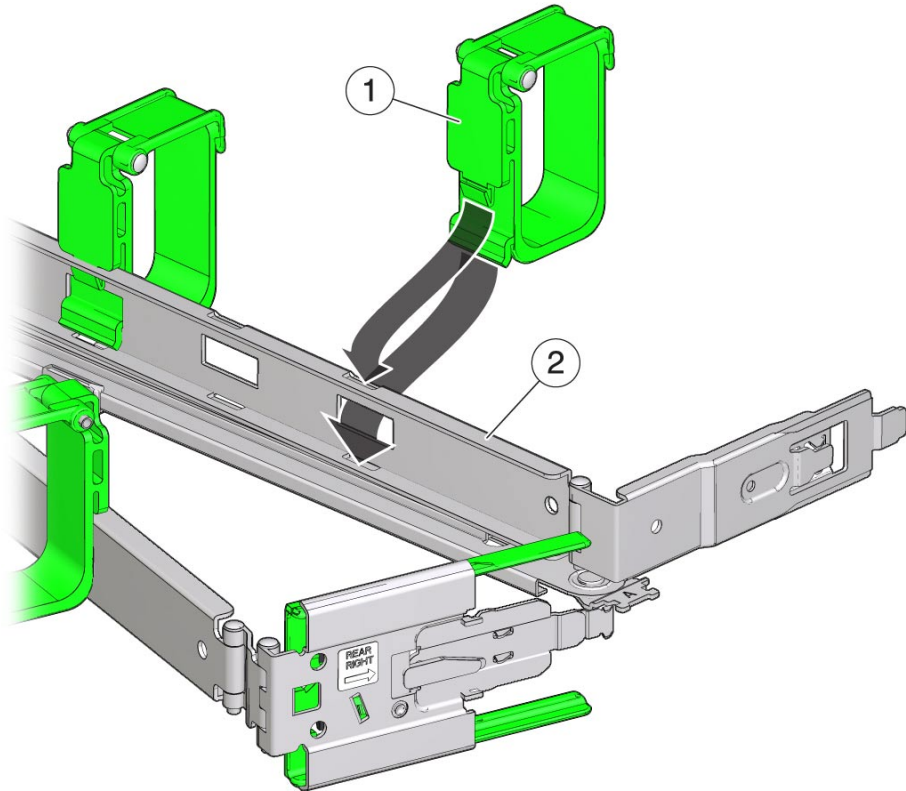
注-サーバーケーブルの取り付け方法については、41 ページの「サーバーケーブルの接続」を参照してください。

- 8 必要に応じて、ケーブルフックとループストラップを CMA に取り付け、所定の位置に押し込んでケーブルを固定します。

注-ケーブルフックとループストラップは、CMA にあらかじめ取り付けられています。ケーブルフックとループストラップを CMA に取り付け直す必要がある場合は、この手順を実行してください。

最善の結果を得るには、3つのケーブルストラップをCMAの背面側に等間隔に配置し、3つのケーブルストラップをサーバーにもっとも近いCMAの側面に配置します。

図6 CMAケーブルストラップの設置



図の説明

- 1: CMA ケーブルストラップ
- 2: CMA アーム

参考 関連情報

- 39 ページの「スライドレールとCMAの動作を確認する」
- 51 ページの「ケーブルをCMAに固定する」

▼ スライドレールとCMAの動作を確認する

スライドレールとCMAが正しく動作していることを確認するには、次の手順に従います。

注-この手順は、2人の作業員で実行することをお勧めします。1人がサーバーをラックの前後に動かし、もう1人がケーブルとCMAを監視します。

- 1 スライドレールがストップに達するまで、サーバーをゆっくりとラックから引き出します。
- 2 接続されたケーブルが巻き付いたりねじれたりしていないかを確認します。
- 3 **CMA**がスライドレールからいっぱいまで伸びていることを確認します。
- 4 次のようにして、サーバーをラック内に押し戻します。
サーバーを完全に引き出したときに、2対のスライドレールストップを解放してサーバーをラックに戻す必要があります。
 - a. 最初の対のストップは各スライドレールの内側(サーバーの背面パネルのすぐ後ろ)にあるレバーです。両方の緑色のレバーを同時に押し、サーバーをラックに向かってスライドさせます。
サーバーは約46 cm (18インチ)スライドして停止します。
続ける前に、ケーブルとCMAが引っかからずに格納されることを確認します。
 - b. 2番目の対のストップは、各固定部品の前面近くにあるスライドレールリリースボタンです。両方の緑色のスライドレールリリースボタンを同時に押し、両方のスライドレールロックがかみ合うまでサーバーを完全にラック内に押し込みます。
- 5 必要に応じて、ケーブルストラップと**CMA**を調整します。

参考 関連情報

- 34 ページの「CMAを取り付ける」
- 51 ページの「ケーブルをCMAに固定する」

サーバーケーブルの接続

サーバーをブートする前に、ネットワークおよびシリアルポートを接続して構成します。

- 41 ページの「配線の要件」
- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」
- 43 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」
- 44 ページの「NET MGT ケーブルを接続する」
- 45 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」
- 46 ページの「ネットワークモジュールケーブルに接続する」
- 49 ページの「その他のデータケーブルを接続する」
- 50 ページの「電源コードを準備する」
- 51 ページの「ケーブルを CMA に固定する」

関連情報

- 39 ページの「スライドレールと CMA の動作を確認する」
- 19 ページの「背面パネルのコンポーネント」

配線の要件

配線してサーバーの電源を入れる前に、次のネットワーク情報を収集します。

- ネットマスク
- サービスプロセッサの IP アドレス
- ゲートウェイの IP アドレス

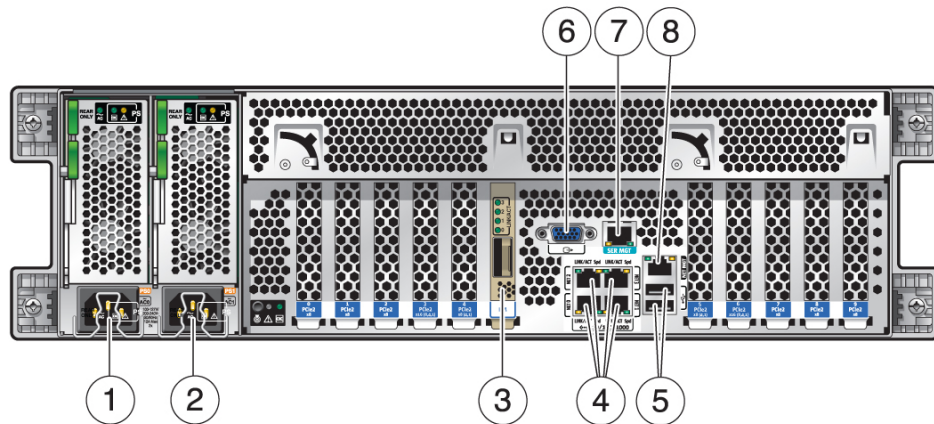
はじめてサーバーに電源を入れる前に、少なくともこれらのポートにケーブルを接続しておく必要があります。

- SP SER MGT ポート
- SP NET MGT ポート
- 1つ以上のシステムボード上の Ethernet ネットワークポート
- 電源装置の差し込み口ポート用電源ケーブル

関連情報

- 43 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」
- 44 ページの「NET MGT ケーブルを接続する」
- 45 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」
- 50 ページの「電源コードを準備する」
- 56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」

背面パネルのコネクタとポート



番号	ケーブルポートまたは拡張スロット	説明
1	電源装置 0 の AC 電源差し込み口	付属の AC 電源コード、またはサポートされている AC 電源コードを使用します。
2	電源装置 1 の AC 電源差し込み口	注-データケーブルの接続が完了し、サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまでは、電源ケーブルを電源装置に接続しないでください。
3	SPARC T3-2 サーバー 10 Gb ネットワークモジュール QSFD ポート	サポートされているトランシーバおよびケーブルの使用時は、SPARC T3-2 サーバー 10 Gb ネットワークモジュールカードの QSFD ポートで 4 つの 10G ビット接続が提供されます。
4	ネットワーク 10/100/1000 ポート (NET0、NET1、NET2、および NET3)	4 つのギガビット Ethernet ポートにより、システムをネットワークに接続できるようになります。 注-ILOM サイドバンド管理機能を使用すると、これらのポートの 1 つを使用して SP にアクセスできます。手順については、『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

番号	ケーブルポートまたは拡張スロット	説明
5	USB ポート (USB 0、USB 1)	<p>2つの USB ポートは、ホットプラグをサポートします。サーバーの動作中に、システムの運用に影響を与えることなく、USB ケーブルや周辺デバイスを接続したり切り離したりできます。</p> <p>注-4つの USB コントローラ (2つのポートは前面、2つは背面) のそれぞれに、最大 126 台のデバイス (サーバー 1 台あたり合計 504 台の USB デバイス) を接続できます。</p>
6	DB-15 ビデオポート	ビデオデバイスに接続するには、DB-15 ビデオケーブルを使用します。
7	SP NET MGT Ethernet ポート	<p>ネットワーク管理ポートは、ILOM SP へのオプションの接続です。サービスプロセッサのネットワーク管理ポートでは、10/100 BASE-T 接続用に RJ-45 ケーブルを使用します。DHCP を使用しないネットワークでは、SP SER MGT ポートを通してネットワーク設定を構成するまで、このポートを使用できません。</p> <p>注-このポートでは、ギガビットネットワークへの接続はサポートされていません。</p>
8	SP SER MGT ポート	シリアル管理ポートは RJ-45 ケーブルを使用し、常に使用可能です。このポートは、ILOM システムコントローラへのデフォルトの接続です。

関連情報

- 41 ページの「配線の要件」
- 51 ページの「ケーブルを CMA に固定する」

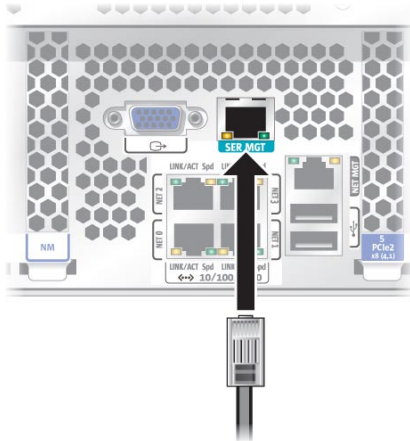
▼ SER MGT ケーブルを接続する

サービスプロセッサのシリアル管理ポートには、SER MGT というラベルが付いています。サーバー管理には SP SER MGT ポートのみを使用します。このポートは、サービスプロセッサと、端末またはコンピュータとの、デフォルトの接続です。このポートはサーバーの管理に使用します。



注意-このポートにモデムを接続しないでください。

- カテゴリ 5(またはそれ以上)のケーブルを、**SER MGT** から端末デバイスに接続します。
DB-9 ケーブルを接続する場合は、アダプタを使用して、各コネクタ用に指定されたクロスオーバーを実行します。



参考 関連情報

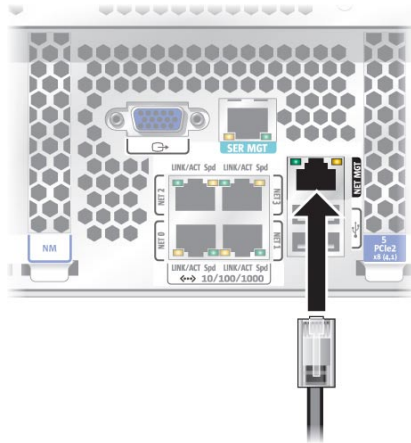
- 44 ページの「NET MGT ケーブルを接続する」
- 55 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」
- 64 ページの「SER MGT ポート」

▼ NET MGT ケーブルを接続する

サービスプロセッサのネットワーク管理ポートには、NET MGT というラベルが付いています。サーバーの初期構成を行ったあとで、この NET MGT ポートを使用して、Enternet ネットワーク上のサービスプロセッサに接続できます。

DHCP サーバーを使用して IP アドレスを割り当てるネットワークの場合は、DHCP サーバーによって、この NET MGT ポートに IP アドレスが割り当てられます。この IP アドレスにより、SSH 接続を使用してサービスプロセッサに接続できます。DHCP を使用しないネットワークの場合は、SER MGT ポートを通してネットワーク設定を構成するまで、この NET MGT ポートにアクセスできません。手順については、60 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」を参照してください。

- カテゴリ 5 (またはそれ以上) のケーブルを、NET MGT ポートからネットワークスイッチまたはハブに接続します。



参考 関連情報

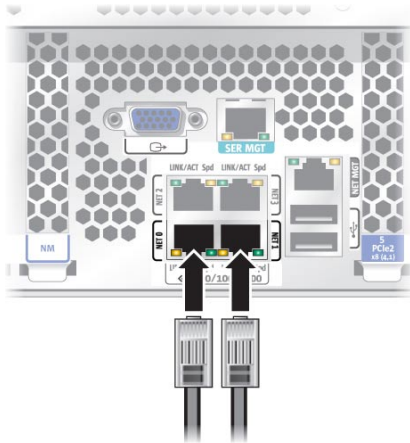
- 45 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」
- 60 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」
- 65 ページの「NET MGT ポート」

▼ Ethernet ネットワークケーブルを接続する

サーバーには、NET0、NET1、NET2、および NET3 とマークの付いた、4 つのギガビット Ethernet ネットワークコネクタがあります。これらのポートを使用して、サーバーをネットワークに接続します。

注 - ILOM サイドバンド管理機能により、これらの Ethernet ポートの 1 つを使用して、SP にアクセスできます。手順については、『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

- 1 カテゴリ 5(またはそれ以上)のケーブルを、ネットワークスイッチまたはハブからシャーシの背面にある **Ethernet** ポート **0 (NET0)** に接続します。



- 2 必要に応じて、カテゴリ 5(またはそれ以上)のケーブルをネットワークスイッチまたはハブから残りの **Ethernet** ポート (**NET1**、**NET2**、**NET3**) に接続します。

参考 関連情報

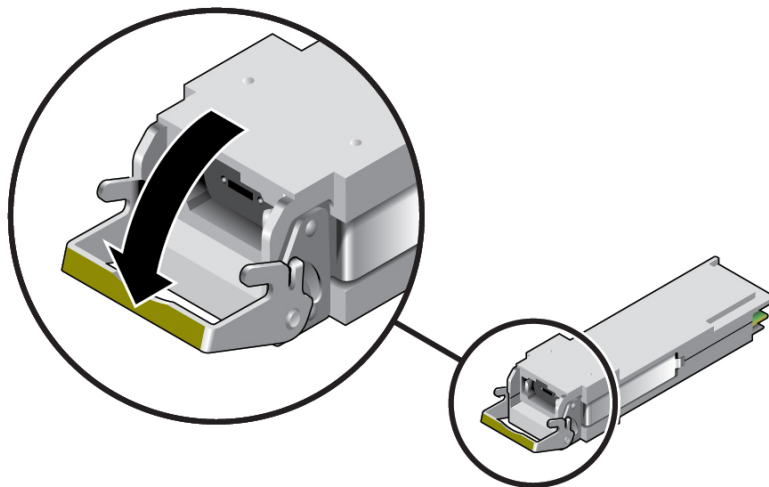
- 『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』
- 53 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」
- 65 ページの「ギガビット Ethernet ポート」

▼ ネットワークモジュールケーブルに接続する

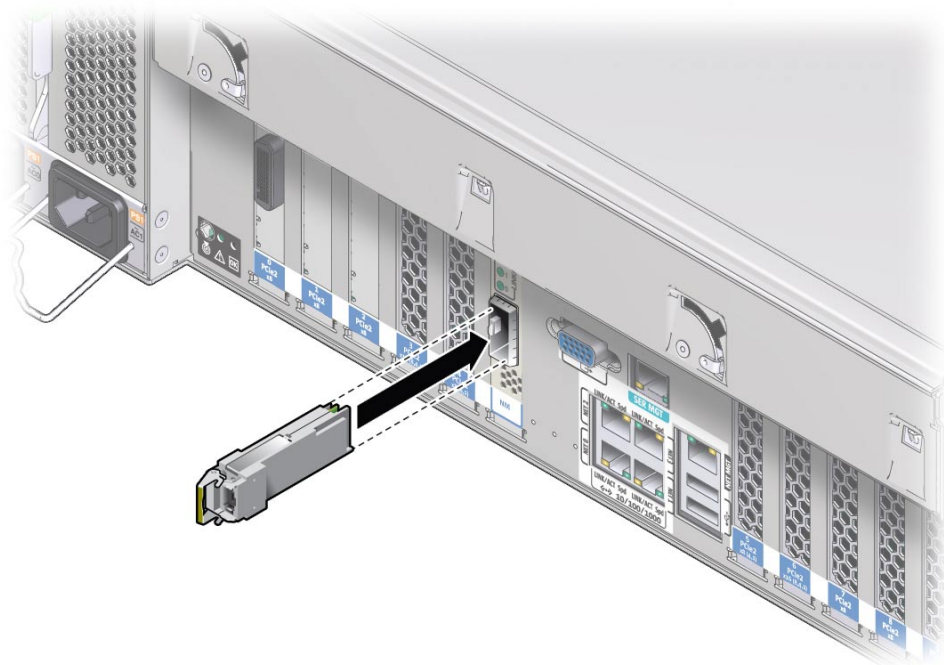
サポートされている QSFP トランシーバモジュールを使用する場合は、オプションの SPARC T3-2 サーバー 10 Gb ネットワークモジュールカードで 4 つの 10 GbE ネットワーク接続が提供されます。

- 1 トランシーバモジュールをパッケージから取り出して、静電気防止用マットの上に置きます。
- 2 保護エンドキャップをトランシーバモジュールから取り外します。

- 3 カチっという音がするまで、トランシーバモジュールのロックハンドルを開きます。

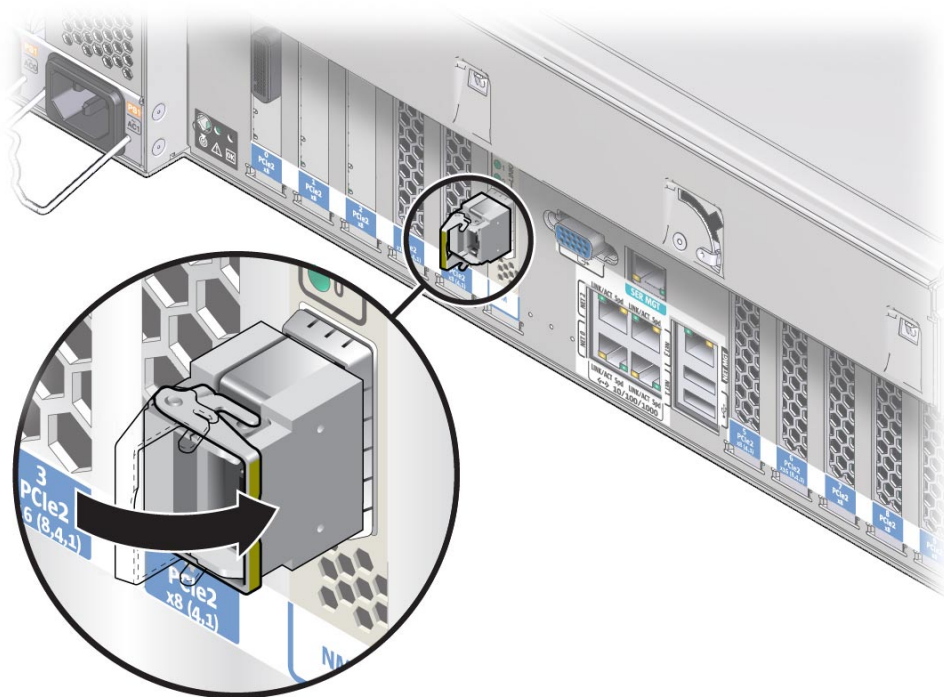


- 4 次の図に示すように、トランシーバモジュールの位置を QSFP に合わせます。

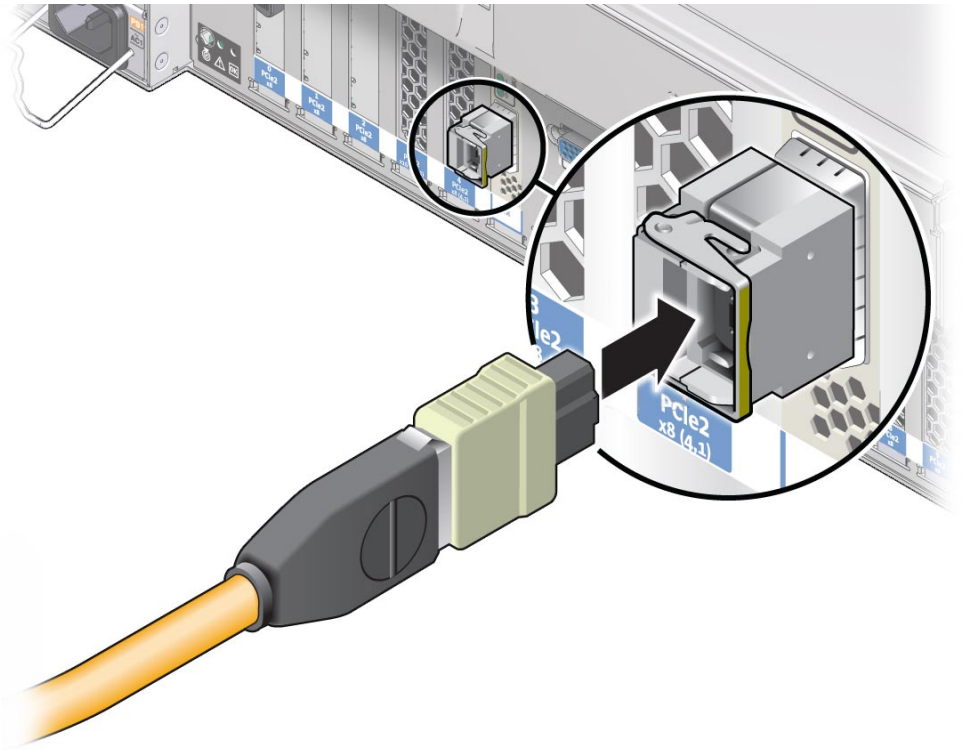


- 5 トランシーバモジュールの端を持ち、モジュールを QSFP スロットに慎重に差し込みます。
- 6 トランシーバモジュール全体に均等に力をかけて、モジュールがスロットにしっかり挿入されるまで押し込みます。
- 7 ハンドルを押して閉じ、トランシーバモジュールを定位置にロックします。

注- 取り付けられているトランシーバモジュールのロックハンドルを開いた場合は、トランシーバモジュールを完全に取り外してからもう一度取り付けてください。ハンドルは内部ロックの機能を果たします。ハンドルを開くと、接続されているように見えても、トランシーバモジュールが切断されている場合があります。



- ケーブルをコネクタに接続します。
ハンドルがロック位置にあることを確認してから、ケーブルをトランシーバモジュールに接続します。



参考 関連情報

- ネットワーク装置のドキュメント
- [69 ページの「QSFP ポート」](#)

▼ その他のデータケーブルを接続する

サーバー構成にオプションの PCIe カードが含まれている場合は、適切な I/O ケーブルをそれらのコネクタに接続します。

- サーバー構成にオプションの PCIe カードが含まれている場合は、適切な I/O ケーブルをそれらのコネクタに接続します。
詳しい手順については、PCIe カードのドキュメントを参照してください。

参考 関連情報

- PCIe カードのドキュメント
- 『SPARC T3-2 サーバーサービスマニュアル』

▼ 電源コードを準備する

電源コードを AC 電源からサーバーに配線して準備します。



注意 - サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまで、電源ケーブルを電源装置に接続しないでください。

注 - 電源ケーブルで電源装置と外部電源が接続されるとすぐに、サーバーはスタンバイモードになり、ILOM サービスプロセッサが初期化されます。電源を入れる前に端末または端末エミュレータが SER MGT ポートに接続されていない場合、60 秒でシステムメッセージが表示されなくなる場合があります。

注 - 同時に両方の電源装置が接続されていない場合は、非冗長の状態になるため、ILOM がフォルト発生を通知します。

- 1 AC 電源の回路遮断機がオフになっていることを確認します。
手順については、AC 電源のドキュメントを参照してください。
- 2 AC 電源からサーバー背面に電源コードを配線します。
この時点では、電源コードを電源に接続しないでください。

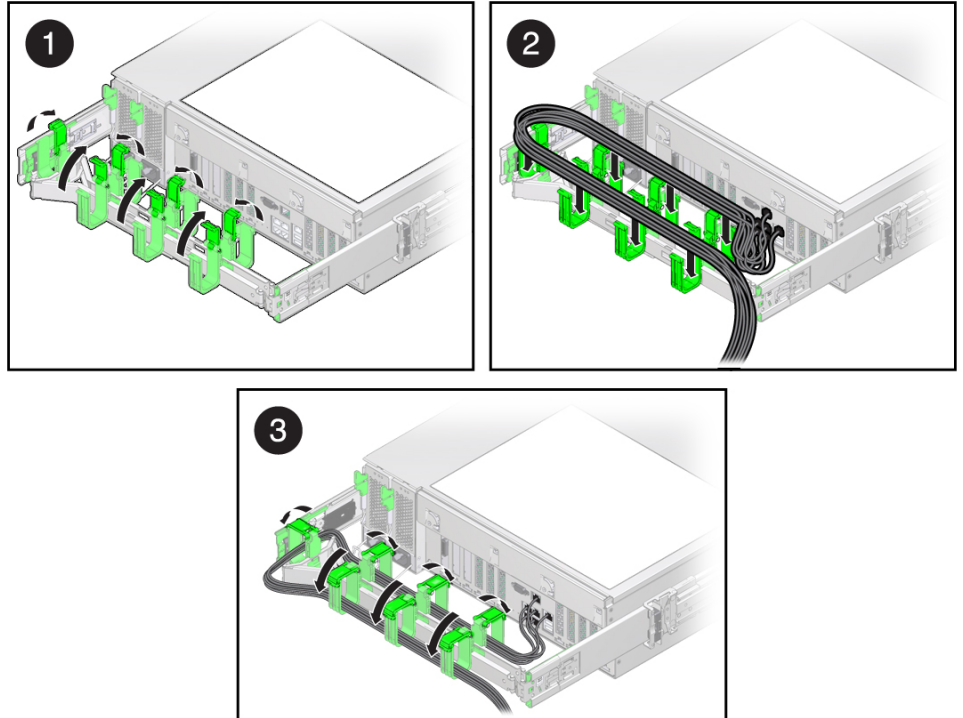
参考 関連情報

- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」
- 53 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

▼ ケーブルを **CMA** に固定する

サーバーケーブルを接続したあとに、それらをケーブル管理アームに固定します。

- 1 ケーブルフックを開き、ストラップを **CMA** に巻きつけます。



- 2 **CMA** ケーブルフックとストラップを通してサーバーケーブルを配線します。
- 3 フックを閉じ、ストラップをきつく閉めて、ケーブルを **CMA** に固定します。
- 4 スライドレールおよび **CMA** の動作を確認します。
39 ページの「スライドレールと **CMA** の動作を確認する」を参照してください。

参考 関連情報

- 34 ページの「**CMA** を取り付ける」
- 39 ページの「スライドレールと **CMA** の動作を確認する」
- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」

サーバーへのはじめての電源投入

これらのトピックでは、はじめてサーバーに電源を投入し、Oracle Solaris OS を構成する手順について説明します。

この章は、次のセクションで構成されています。

- 53 ページの「電源投入時のタスク」
- 54 ページの「ILOM システムコンソール」
- 55 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」
- 56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」
- 58 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」
- 60 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」

関連情報

- 7 ページの「設置の準備」
- 23 ページの「サーバーの設置」
- 41 ページの「サーバーケーブルの接続」

電源投入時のタスク

サーバーの電源をはじめて投入する際には、次の手順を実行する必要があります (2 回目以降の電源投入時には必要ありません)。

番号	手順	目的	リンク
1	SER MGT ポートに端末または端末エミュレータを接続します。	サービスプロセッサでネットワークアクセスの構成を行う前に、サービスプロセッサにログインできるようにします。	55 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」
2	サービスプロセッサにログインして、デフォルトの root パスワードを変更します。	デフォルトの root パスワードを変更して、無許可のアクセスからシステムを保護します。	56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」

番号	手順	目的	リンク
3	ILOM システムコンソールを開始します。	ILOM ファームウェアのシステム初期化メッセージを監視できるようにします。	56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」
4	Oracle Solaris OS を構成します。	サーバーの電源投入後、インストール済みの Oracle Solaris OS を構成するためのメッセージが表示されます。	56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」 58 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」

関連情報

- [41 ページの「サーバーケーブルの接続」](#)

ILOM システムコンソール

システムの電源を入れると、ILOM システムコンソールの制御下でブートプロセスが開始されます。システムコンソールには、システムの起動中に実行されるファームウェアベースのテストで生成されたステータスメッセージおよびエラーメッセージが表示されます。

注- これらのステータスメッセージとエラーメッセージを確認するには、サーバーの電源を入れる前に、SER MGT に端末または端末エミュレータを接続します。

システムコンソールによる低レベルのシステム診断が完了すると、サービスプロセッサが初期化され、より高いレベルの診断が実行されます。シリアル管理ポートに接続されているデバイスを使用してサービスプロセッサにアクセスすると、ILOM 診断の出力が表示されます。

サービスプロセッサは、デフォルトでは、DHCP を使用してネットワーク構成設定を取得し、SSH を使用した接続を許可するように、ネットワーク管理ポートを自動的に構成します。

システムコンソールの構成および端末の接続の詳細については、『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

関連情報

- 『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』
- ILOM のドキュメント
- [56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」](#)
- [60 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」](#)

▼ SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する

サーバーにはじめて電源を投入する前に、サービスプロセッサにシリアル接続します。このシリアル接続を行うと、電源コードの接続時にシステムメッセージを確認できます。

- 1 取り付けの準備がすべて完了していることを確認します。
7 ページの「[設置の準備](#)」の指示を参照してください。
- 2 ラックへのサーバーの取り付けが完了していることを確認します。
41 ページの「[サーバーケーブルの接続](#)」の指示を参照してください。
- 3 端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) をサービスプロセッサのシリアル管理ポートに接続します。
端末または端末エミュレータはこれらの設定で構成します。

- 9600 ボー
- 8 ビット
- パリティなし
- 1 ストップビット
- ハンドシェイクなし

ヌルモデム構成が必要で、DTE 間の通信で送受信の信号が逆になる (クロスされる) ことを意味します。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用すると、ヌルモデム構成を実現できます。

注 - サーバーにはじめて電源を入れるときに端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) が SP SER MGT ポートに接続されていないと、システムメッセージを確認できません。

- 4 サーバーにはじめて電源を入れて取り付けを続けます。
56 ページの「[はじめてシステムの電源を入れる](#)」を参照してください。

参考 関連情報

- 43 ページの「[SER MGT ケーブルを接続する](#)」
- 56 ページの「[はじめてシステムの電源を入れる](#)」

▼ はじめてシステムの電源を入れる

- 1 サーバーがラックに取り付けられ、すべてのデータケーブルが接続されていることを確認します。
手順については、次を参照してください。
 - 23 ページの「サーバーの設置」
 - 41 ページの「サーバーケーブルの接続」
- 2 サービスプロセッサにシリアル接続されていることを確認します。
手順については、55 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」を参照してください。

注-サーバーにはじめて電源を入れるときに端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) が SP SER MGT ポートに接続されていないと、システムメッセージを確認できません。

- 3 (省略可能) サーバーの NET MGT ポートと、SP およびホストにあとで接続されるネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。

注-SP SER MGT ポートを使用してシステムの初期構成を行なったあと、通常、SP およびホストとの通信はこの Ethernet インタフェースを介して行われます。

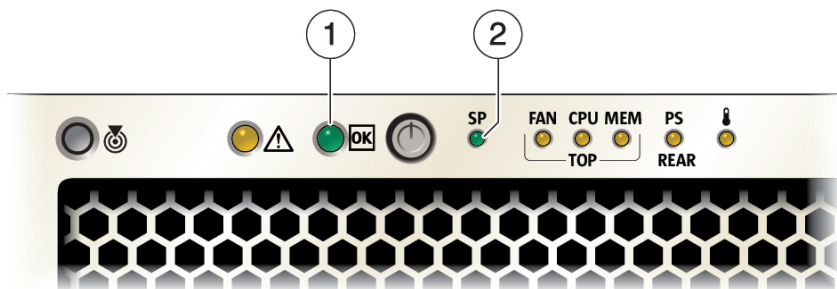
- 4 サーバーのギガビット Ethernet ポートの1つと、サーバーが通信するネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
手順については、45 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」を参照してください。

- 5 電源コードを電源装置および別個の電源に接続します。

冗長性を実現するには、両方の電源装置を別々の電源に接続します。電源接続が1つでもシステムは動作しますが、その場合は冗長性がなくなります。

サービスプロセッサは3.3Vスタンバイ電圧で動作します。AC電源がシステムに接続されるとすぐ、フロントパネルのSP OK/障害LEDが点滅し、サービスプロセッサの電源が入り、診断が実行されて、ILOMファームウェアが初期化されます。

図7 フロントパネルの主電源と SP LED



図の説明

- 1: 主電源/OK LED
- 2: SP OK/障害 LED

ILOM ファームウェアが初期化されると、SP OK/障害 LED は点灯した状態になり、主電源 OK/障害 LED がゆっくり点滅して、端末デバイスに SP ログインプロンプトが表示されます。ホストは初期化されていないか、まだ電源が入っていません。

- 6 端末デバイスで、パスワード **changeme** を使用して、**root** として **SP** にログインします。

```
XXXXXXXXXXXXXXXXX login: root
Password: changeme
. . .
->
```

しばらくすると、SP プロンプト (->) が表示されます。この時点で、ILOM インタフェースを使用して実行できるコマンドは多数あります。

パスワードの変更方法、SP ネットワークパラメータの設定方法など、その他の SP に関する情報は、ILOM のオンラインドキュメントセットに記載されています。

- 7 サーバーの電源を入れ、ホスト出力をリダイレクトしてシリアル端末デバイスに表示されるようにします。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/CONSOLE (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
. . .
```

SP ホストコンソールを起動したあと、サーバーの初期化が完了するまでに約 20 分かかります。

- 8 プロンプトが表示されたら、画面に表示される、ホストで **Oracle Solaris OS** を構成するための手順に従い、次の構成情報を入力します。

構成の確認を求めるプロンプトが数回表示されて、確認と変更を行うことができます。特定の値に応答する方法が不明である場合は、デフォルトを受け入れて、あとで Oracle Solaris OS が動作しているときに変更することができます。詳細は、[58 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」](#)を参照してください。

- 9 サーバーにログインし、その機能を調査します。
- システムの機能を確認するために使用できるコマンドが多数あります。
- `showrev` - ホスト名およびシステムアーキテクチャー情報を表示します。このコマンドに `-a` オプションを指定すると、インストールされているパッチが表示されません。
 - `psrinfo` - ホストのプロセッサおよびコアの番号とステータスに関する情報を表示します。
 - `prtdiag` - システム構成および診断情報を表示します。

詳細は、Oracle Solaris OS のマニュアルページおよびドキュメントを参照してください。

参考 関連情報

- Oracle Solaris のドキュメント
- 『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』
- [55 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」](#)

Oracle Solaris OS の構成パラメータ

Oracle Solaris OS の構成時に、次の構成パラメータの入力を求めるプロンプトが表示されます。これらの設定の詳細については、Oracle Solaris のドキュメントを参照してください。

パラメータ	説明
Language	表示された言語の一覧から番号を選択します。
Locale	表示されたロケールの一覧から番号を選択します。
Terminal Type	使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。
Network?	「Yes」を選択します。
Multiple Network Interfaces	構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。不明である場合は、一覧の先頭のネットワークインタフェースを選択します。

パラメータ	説明
DHCP?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
Host Name	サーバーのホスト名を入力します。
IP Address	この Ethernet インタフェースの IP アドレスを入力します。
Subnet?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
Subnet Netmask	Subnet? の答えが「Yes」だった場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。
IPv6?	IPv6 を使用するかどうかを指定します。不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。
Security Policy	標準の UNIX セキュリティー (No) または Kerberos セキュリティー (Yes) のいずれかを選択します。不明である場合は、「No」を選択します。
Confirm	このプロンプトが表示された場合は、画面の情報を確認し、必要に応じて変更を加えます。それ以外の場合は、処理を続行します。
Name Service	使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。 注 - 「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービス構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。
NFSv4 Domain Name	使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。不明である場合は、「Use the NFSv4 domain derived by the system」を選択します。
Time Zone (Continent)	該当する大陸を選択します。
Time Zone (Country or Region)	該当する国または地域を選択します。
Time Zone	タイムゾーンを選択します。
Date and Time	デフォルトの日付と時刻を受け入れるか、値を変更します。
root Password	root パスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバーの Oracle Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。このパスワードは、SP のパスワードではありません。

関連情報

- Oracle Solaris OS のドキュメント
- 56 ページの「はじめてシステムの電源を入れる」

▼ 静的 IP アドレスを SP に割り当てる

DHCP を使用して IP アドレスを割り当てるネットワークの場合は、IP アドレスは DHCP デバイスによってサービスプロセッサに自動的に割り当てられます。DHCP を使用しないネットワークの場合は、この手順に従って、静的 IP アドレスをサービスプロセッサに割り当てます。

注 - ILOM の構成の詳細は、『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』および ILOM のドキュメントを参照してください。

- 1 **SER MGT** ポートを介したシリアル接続を使用してサービスプロセッサにログインします。

シリアル接続の手順については、55 ページの「**SER MGT** ポートに端末またはエミュレータを接続する」を参照してください。root (*changeme* がデフォルトの root パスワード) としてサービスプロセッサにログインすると、ILOM (->) プロンプトが表示されます。

```
hostname login: root
Password: password (nothing displayed)
```

```
Oracle(R) Integrated Lights Out Manager
```

```
Version 3.0.12.2
```

```
Copyright (c) 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
```

```
Warning: password is set to factory default.
```

```
->
```

- 2 静的 IP アドレスを受け入れるようにサービスプロセッサを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'
```

- 3 サービスプロセッサの IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=service-processor-IPAddr
Set 'pendingipaddress' to 'service-processor-IPAddr'
```

- 4 サービスプロセッサゲートウェイの IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipgateway=gateway-IPAddr
Set 'pendingipgateway' to 'gateway-IPAddr'
```

- 5 サービスプロセッサのネットマスクを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
```

この例では、255.255.255.0 を使用してネットマスクを設定します。ご使用のネットワーク環境のサブネットでは、異なるネットマスクが必要になる場合があります。使用している環境にもっとも適したネットマスク番号を使用してください。

- 6 **show /SP/network -display properties** コマンドを使用して、パラメータが適切に設定されたことを確認します。

このコード例は、サービスプロセッサを DHCP 構成から静的構成に変換するように設定されたパラメータを示しています。

```
-> show /SP/network -display properties
/SP/network
Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  dhcp_server_ip = none
  ipaddress = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipnetmask = 255.255.255.0
  macaddress = 00:21:28:6F:A7:BB
  managementport = /SYS/MB/SP/NETMGMT
  outofbandmacaddress = 00:21:28:6F:A7:BB
  pendingipaddress = xxx.xxx.xxx.xxx
  pendingipdiscovery = static
  pendingipgateway = xxx.xxx.xxx.xxx
  pendingipnetmask = 255.255.255.0
  pendingmanagementport = /SYS/MB/SP/NETMGMT
  sidebandmacaddress = 00:21:F8:6F:A7:BA
  state = enabled
->
```

注 - 構成パラメータを設定したあとで、`set /SP/network commitpending=true` コマンドを入力して新しい値を有効にする必要があります。

- 7 サービスプロセッサのネットワークパラメータに対する変更を確定します。

```
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

注 - `set /SP/network commitpending=true` コマンドを実行したあとで、`show /SP/network` コマンドを再度実行すると、パラメータが更新されたことを確認できます。

参考 関連情報

- 『SPARC T3 シリーズサーバー管理ガイド』
- ILOM のドキュメント

サーバーポートの特定

これらのトピックでは、サーバーポートのピンについて説明します。

- 63 ページの「USB ポート」
- 64 ページの「SER MGT ポート」
- 65 ページの「NET MGT ポート」
- 65 ページの「ギガビット Ethernet ポート」
- 66 ページの「ビデオポート」
- 67 ページの「SAS コネクタ」
- 69 ページの「QSFP ポート」

関連情報

- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」
- 41 ページの「サーバーケーブルの接続」

USB ポート

2つの USB ポートはサーバーの前面から、もう2つはサーバーの背面からアクセスできます。

図8 USB コネクタ



図の説明

- 1: +5 V 給電
- 2: データ -
- 3: データ +
- 4: アース

関連情報

- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」

SER MGT ポート

SER MGT RJ-45 ポートは背面パネルにあり、システムコンソールへのデフォルトの接続を提供します。

図9 SER MGT ポート



図の説明

- 1: 送信可
- 2: データキャリア検出
- 3: 送信データ
- 4: アース
- 5: アース
- 6: 受信データ
- 7: データ端末レディー
- 8: 送信要求

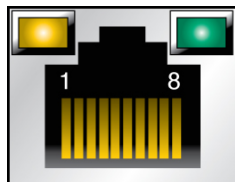
関連情報

- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」
- 43 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」
- 55 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」

NET MGT ポート

NET MGT RJ-45 ポートは背面パネルにあり、サービスプロセッサへのオプションの Ethernet 接続を提供します。

図 10 NET MGT ポート



図の説明

- 1: 送信データ +
- 2: 送信データ -
- 3: 受信データ +
- 4: 接続なし
- 5: 接続なし
- 6: 受信データ -
- 7: 接続なし
- 8: 接続なし

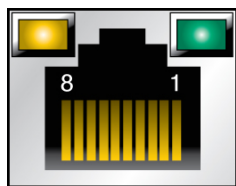
関連情報

- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」
- 44 ページの「NET MGT ケーブルを接続する」
- 60 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」

ギガビット Ethernet ポート

4つの RJ-45 ギガビット Ethernet コネクタ (NET0、NET1、NET2、NET3) には、背面パネルからアクセスできます。Ethernet インタフェースは 10M ビット/秒、100M ビット/秒、および 1000M ビット/秒で動作します。

図11 ギガビット Ethernet ポート



図の説明

- 1: 送信/受信データ 0+
- 2: 送信/受信データ 0-
- 3: 送信/受信データ 1+
- 4: 送信/受信データ 2+
- 5: 送信/受信データ 2-
- 6: 送信/受信データ 1-
- 7: 送信/受信データ 3+
- 8: 送信/受信データ 3-

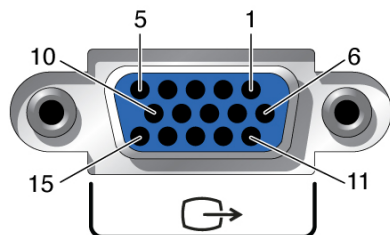
関連情報

- 42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」
- 45 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」

ビデオポート

サーバーには 15 ピンの VGA ビデオポートが 2 つ搭載されていて、1 つはサーバーの前面にあり、もう 1 つは背面にあります。

図12 ビデオコネクタ



図の説明

- 1: 赤ビデオ
- 2: 緑ビデオ

- 3: 青ビデオ
- 4: モニター ID - ビット 2 (アース)
- 5: アース
- 6: 赤アース
- 7: 緑アース
- 8: 青アース
- 9: +5 V
- 10: 同期アース
- 11: モニター ID - ビット 0 (アース)
- 12: VGA 12C シリアルデータ
- 13: 水平同期
- 14: 垂直同期
- 15: VGA 12C シリアルクロック

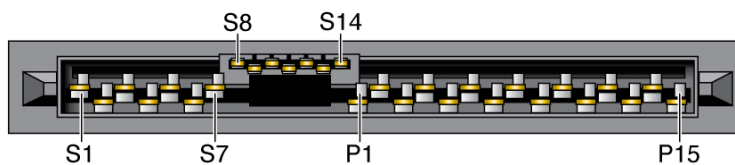
関連情報

- [42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」](#)

SAS コネクタ

6つの SAS コネクタが、サーバーの内側のドライブバックプレーンにあります。

図 13 SAS コネクタ



次の表は、SAS コネクタのピン配列の一覧です。

表1 SAS コネクタのピン配列

信号セグメント	S1	Gnd	第2メイト
	S2	TX+	PHYからハードドライブへ転送
	S3	TX-	
	S4	Gnd	第2メイト
	S5	RX-	ハードドライブからPHYへ受信
	S6	RX+	
	S7	Gnd	第2メイト
バックサイド信号	S8	Gnd	第2メイト
	S9		
	S10		
	S11	Gnd	第2メイト
	S12		
	S13		
	S14	Gnd	第2メイト

表1 SASコネクタのピン配列 (続き)

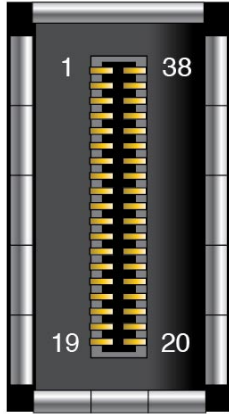
電源セグメント	P1	3.3V	サポート対象外
	P2	3.3V	サポート対象外
	P3	3.3V	サポート対象外
	P4	Gnd	第1メイト
	P5	Gnd	第2メイト
	P6	Gnd	第2メイト
	P7	5.0V	プリチャージ、第2メイト
	P8	5.0V	
	P9	5.0V	
	P10	Gnd	第2メイト
	P11	予約	接地を推奨
	P12	Gnd	第1メイト
	P13	12.0V	プリチャージ、第2メイト
	P14	12.0V	
	P15	12.0V	

関連情報

- 『SPARC T3-2 サーバースービスマニュアル』

QSFP ポート

Oracle の SPARC T3-2 サーバ 10 Gb ネットワークモジュールカードは、QSFP ポートを 1 つ搭載しています。



次の表は、各接続のピン配列の一覧です。

ピン	信号	ピン	信号	ピン	信号	ピン	信号
1	GND	11	SCL	21	RX2n	31	予約
2	TX2n	12	SDA	22	RX2p	32	GND
3	TX2p	13	GND	23	GND	33	TX3p
4	GND	14	RX3p	24	RX4n	34	TX3n
5	TX4n	15	RX3n	25	RX4p	35	GND
6	TX4p	16	GND	26	GND	36	TX1p
7	GND	17	RX1p	27	ModPrsL	37	TX1n
8	ModSelL	18	RX1n	28	IntL	38	GND
9	LPMoDe_Reset	19	GND	29	VccTx		
10	VccRx	20	GND	30	Vcc1		

次の表は、QSFP 信号の説明です。

信号	説明
GND	信号および電源回復のためのアース
SDA	I ² C インタフェースデータ
SCL	I ² C インタフェースクロック

信号	説明
ModSelL	低電力時モジュール選択 - I ² C コマンドを受信可能
ResetL	低電力時リセット
LPMode	低電力モード
ModPrsL	低電力時のモジュール有無 - QSFP コネクタの存在を識別
IntL	低電力時割り込み - 障害インジケーションを有効化

関連情報

- [42 ページの「背面パネルのコネクタとポート」](#)
- [46 ページの「ネットワークモジュールケーブルに接続する」](#)

用語集

B

BMC Baseboard Management Controller (ベースボード管理コントローラ)

C

CMA Cable Management Arm (ケーブル管理アーム)

D

DHCP Dynamic Host Configuration Protocol (動的ホスト構成プロトコル)

DTE Data Terminal Equipment (データ端末装置)

E

ESD Electrostatic Discharge (静電放電)

H

HBA Host Bus Adapter (ホストバスアダプタ)

I

ILOM	Oracle Integrated Lights Out Manager
IP	Internet Protocol (インターネットプロトコル)

N

NET MGT	Network Management Port (ネットワーク管理ポート)
NIC	Network Interface Card/Controller (ネットワークインタフェースカードまたはネットワークインタフェースコントローラ)

O

Oracle Solaris OS	Oracle Solaris オペレーティングシステム
--------------------------	-----------------------------

P

POST	Power-On Self-Test (電源投入時自己診断テスト)
-------------	-----------------------------------

Q

QSFP	Quad Small Form-factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタプラグابل)
-------------	---

S

SAS	Serial Attached SCSI
SER MGT	Serial Management Port (シリアル管理ポート)
SP	Service Processor (サービスプロセッサ)
SSD	Solid-State Drive (半導体ドライブ)

SSH Secure Shell

U

UI User Interface (ユーザーインタフェース)

UUID Universal Unique Identifier (汎用一意識別子)

W

WWID World-Wide Identifier (ワールドワイド識別子)。SASターゲットを一意に特定する番号。

索引

A

AC OK LED、位置, 19
AC 電源、はじめての電源投入時のタスク, 53

C

CMA、「ケーブル管理アーム (CMA)」を参照
CPU の説明, 9

D

DHCP, 44, 60
DIMM の説明, 9
DVD ドライブ, 18

E

ESD に関する注意事項, 20
Ethernet ポート, 10, 19
 位置, 42
 サイドバンド管理, 45
 配線, 45
 ピン配列, 65

I

ILOM, 54
IP アドレス
 ゲートウェイ, 41

IP アドレス (続き)

 サービスプロセッサ, 41
 静的, 60

L

LED
 AC OK, 19
 SP OK/障害, 18, 56
 過熱警告, 18
 システムステータス, 19
 主電源/OK, 18, 57
 電源装置の障害, 18
 電源ボタン/OK, 18
 保守要求, 18
 ロケータボタン, 18

N

NET MGT ポート、「ネットワーク管理 (NET MGT) ポート」を参照

O

Oracle Solaris OS
 構成, 58
 構成パラメータ, 58

P

PCIe カード
スロット, 10, 19
配線, 49

Q

QSFP
NM カードスロット, 42
コネクタのピン配列, 69
トランシーバモジュール, 47
配線, 46

S

SAS コネクタのピン配列, 67
SER MGT ポート, 「シリアル管理 (SER MGT)
ポート」を参照
set コマンド, 60
show /SP/network コマンド, 61
show コマンド, 61
SPOK/障害 LED, 18, 56
start コマンド, 57

U

USB ポート, 9
背面, 19, 43
ピン配列, 63
フロント, 18
ホットプラグ, 43

お

オプションのコンポーネント、取り付け手順, 21
音響ノイズの放出, 14
温度要件, 13

か

過熱警告 LED, 18
過熱、防止, 15
環境要件, 13

け

ゲートウェイの IP アドレス, 41
ケーブル管理アーム (CMA)
ケーブルストラップ, 38
ケーブルの固定, 51
ケーブルフックとループストラップ、取り付
け, 37
固定部品, 34
スライドレールコネクタ, 36
動作の確認, 39
取り付け, 34

こ

構成
Oracle Solaris OS, 58
必要な情報, 41
固定部品
サーバーの取り付け, 32
取り付け, 27
ピン, 27
リリースボタン, 27

さ

サーバーの概要, 8
サービスプロセッサ
DHCP, 60
set コマンド, 60
show コマンド, 61
start コマンド, 57
静的 IP アドレス, 60
説明, 10
端末の接続, 55
はじめての電源投入, 56
サイドバンド管理, 45

し

- システムステータス LED、位置、19
- 周囲の相対湿度、13
- 周辺温度の範囲、13
- 出荷キットの内容、16
- 主電源/OK LED、18, 57
- 仕様
 - 環境要件、13
 - 通気のすき間、15
 - 電気、12
 - ノイズの放出、14
 - 物理、11
 - 冷却ゾーン、15
- シリアル管理 (SER MGT) ポート、19
 - 位置、43
 - 配線、43
 - はじめての電源投入、55
 - ピン配列、64
- シリアルケーブル用のアダプタ、44
- シリアル端末設定、55
- シリアル端末のパリティ、なし、55
- シリアル端末のハンドシェイク、なし、55
- シリアル端末のビット設定、55
- シリアル端末のボーレート、55
- 診断、56

す

- スタンバイ
 - 電圧、56
 - モード、50
- ストップビット、55
- スライドレール構成部品
 - サーバーの取り付け、32
 - ストップ、39
 - 動作の確認、39
 - 取り付け、26, 28
 - 取り付けピン、29
 - 取り外し、26
- スライドレールロック、27

せ

- 設置、タスクの概要、7

ち

- 注意、取り扱い、20

つ

- 通気の要件、15

て

- 電気仕様、12
- 電源コード、配線、50
- 電源装置、10, 12
 - AC 電源差し込み口、42
 - LED、19
 - コードの接続、56
 - 障害 LED、位置、18
 - スタンバイモード、50
 - 電源差し込み口、19
 - はじめての電源投入、53
- 電源ボタン、位置、18
- 転倒防止脚または転倒防止バー、25
- 電力消費数値、12

と

- ドライブ、9, 18
- 取り扱い上の注意、20
- 取り付け
 - オプションのコンポーネント、21
 - ケーブル管理アーム (CMA)、34
 - 固定部品、27
 - サーバーのラックへの取り付け、23
 - スライドレール構成部品、28

- に
入力電源の情報, 12
- ね
ネットマスク, 41
ネットワーク管理 (NET MGT) ポート
DHCP, 44
位置, 19, 43
静的IPアドレス, 44
ネットワーク管理 (NET MGT) ポート, 配線, 44
ネットワーク管理 (NET MGT) ポート
ピン配列, 65
ネットワークモジュール, 10
スロット位置, 42
スロットの位置, 19
配線, 46
- の
ノイズの放出, 14
- は
配線
CMA への固定, 51
Ethernet ポート, 45
PCIe カード, 49
QSFP ポート, 46
SER MGT ポート, 43, 44
シリアルデータケーブル用のアダプタ, 44
データケーブル, オプション, 49
電源コード, 50
ネットワークモジュール, 46
背面のポート位置, 43
必要な接続, 41
背面パネル
コンポーネント, 19
ポートおよびコネクタ, 42
はじめての電源投入, 53
- ひ
必要な工具, 21
ビデオコネクタ
位置, 43
説明, 9
背面, 19
ピン配列, 66
フロント, 18
ピン配列
Ethernet ポート, 65
NET MGT ポート, 65
SAS コネクタ, 67
SER MGT ポート, 64
USB ポート, 63
ビデオコネクタ, 66
- ふ
物理仕様, 11
- ほ
保守要求 LED, 18
- め
メモリーの説明, 9
- ら
ラック
互換性, 23
固定, 25
仕様, 23
取り付け穴, サポート, 24
ポスト, 29
ラックマウント
CMA
スライドレールコネクタ, 35
取り付け, 34
安全に関する警告, 24

ラックマウント (続き)

- キット, 23

- ケーブルの取り付け, 37

- ケーブルフックとループストラップ, 37

固定

- 穴, 29

- 部品, 27

- サーバーの取り付け, 32

- スライドレール構成部品, 28

- ストップ、解放, 39

- 転倒防止脚または転倒防止バー、伸ばす, 25

- ラック、サポート, 23

- ラックの固定, 25

れ

- 冷却ゾーン, 15

ろ

- ロケータボタン, 18

